

KITZ



Corporate Report 2020

コーポレイトレポート

株式会社 **キッツ**

今日に貢献する。明日を創造する。

安心して水を使うことができる。石油・ガスが絶え間なく供給される。クリーンな環境で暮らすことができる。キッツグループは、水や空気、石油、ガスなどの流体をコントロールする「バルブ」の製造・販売を通して、私たちの暮らしや産業に欠かすことのできないライフラインを支え、今日のゆたかな社会に貢献しています。さらに、流体制御のプロフェッショナルとして、お客様の期待を超える商品・サービスでそのフィールドと可能性を世界に広げ、明日のゆたかな社会を創造していきたいと考えています。

バルブでつなぐ先は、未来。



Contents

キッツグループの価値創造

- 03 価値創造プロセス
- 05 成長の軌跡
- 07 事業セグメント
- 09 数字で見るキッツグループ

ステークホルダーの皆様へ

- 11 社長メッセージ



- 15 財務担当役員メッセージ

事業の概要と戦略

- 17 バルブ事業
 - 17 バルブ事業統括本部長メッセージ
- 19 KITZ Group + Water
- 21 KITZ Group + Energy
- 23 高付加価値を生み出す研究開発体制
- 25 高品質を実現する生産体制
- 27 広範で強固な販売ネットワーク
- 29 信頼のブランド
- 30 バルブのメンテナンスサービス
- 31 伸銅品事業



サステナビリティ

- 33 担当役員メッセージ
- 35 持続可能な未来に向けて
- 36 コーポレート・ガバナンス
- 39 内部統制システム／コンプライアンス
- 41 経営体制
- 45 社外取締役メッセージ
- 46 環境活動／安全衛生活動
- 50 バルブ業界のリーディングカンパニーとして
- 51 人財を支える取り組み
- 53 多様な人財がキッツグループを支える
- 55 ステークホルダーとの対話
- 57 社会貢献活動

データ編

- 59 主要財務データ
- 65 グループネットワーク
- 69 会社概要／株式情報
- 70 INFORMATION

編集方針

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、キッツグループの持続的な成長に向けた取り組みをお伝えるため、コーポレートレポート2020を発行しました。国際統合報告評議会(IIRC)が提示するフレームワークを参考にし、短・中・長期の価値創造に関する報告を中心に構成しています。

見直しに関するご注意

このレポートに記載されている将来の計画数値、施策など見直しに関する内容は、現在入手可能な情報に基づき当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績等は、様々な要因により見直し等と異なる可能性があります。

キッツグループの価値創造

価値創造プロセス

キッツは、健全で透明性の高い経営のもと、グループの強みを活かしたバルブの製造・販売を通して、持続的な企業価値の向上を目指しています。それにより、株主、投資家の皆様をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会に対して様々な形で寄与し、ゆたかな社会づくりに貢献してまいりたいと考えています。

キッツグループの強み

価値創造プロセス



持続的成長を実現する
経営戦略

P11~16 →

KITZ

流体制御のプロとして
価値を創出する
バルブ事業

P17~30 →

キッツ宣言

KITZ' Statement of Corporate Mission

キッツは、
創造的かつ質の高い商品・サービスで
企業価値の持続的な向上を目指し、
ゆたかな社会づくりに貢献します。

*To contribute to the global prosperity,
KITZ is dedicated to continually enriching its corporate value
by offering originality and quality
in all products and services.*

行動指針

Action Guide

Do it **KITZ** Way

- Do it True (誠実・真実)
- Do it Now (スピード・タイムリー)
- Do it New (創造力・チャレンジ)

創出価値

活力ある
企業風土を醸成する
人財育成

P51~54

- 水やエネルギーなどの安定供給を支え、安心して暮らせる環境を創造

- 顧客・サプライヤーの信頼、地域社会との共生

- グローバル人財の育成と高いモチベーションを保てる企業風土の醸成

- 環境負荷を抑えた事業活動と環境マネジメント体制の強化

- 持続的な株主価値の向上

健全で透明性の高い
経営を実現する
コーポレート・ガバナンス

P36~45

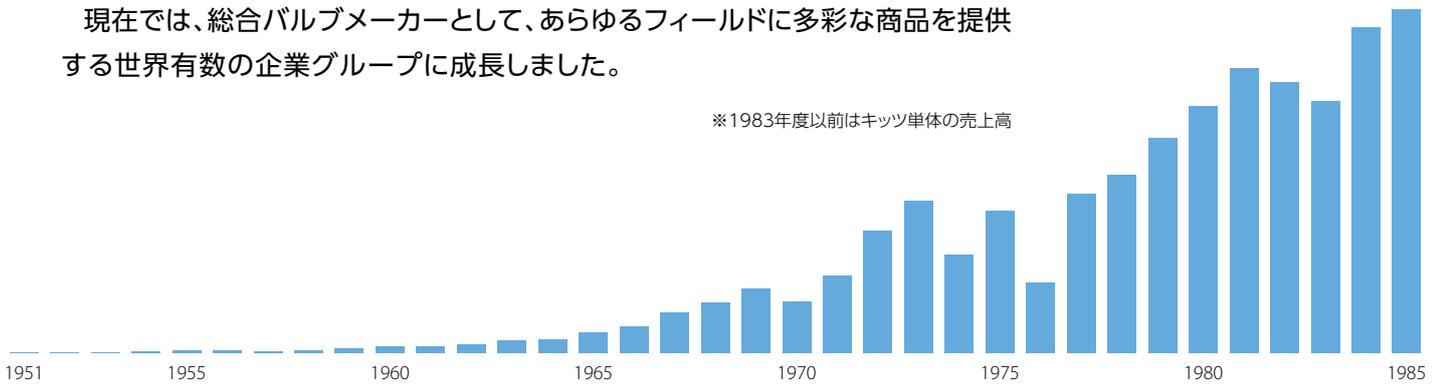


成長の軌跡

1951年、日本が敗戦の混乱期から高度経済成長時代へと移りつつある中、北澤製作所(現キッツ)が創業しました。創業者 北澤利男(1917~1997年)の理念により、素材からの一貫生産を基本に、鑄造から加工・組立・検査・出荷など全ての工程を社内で行い、さらに、きめ細かい販売サービスやアフターフォローをお客様に提供する体制を築いてまいりました。こうした「より良い品質」へのこだわりが今日まで脈々と受け継がれ、私たちキッツグループの源流となっています。

現在では、総合バルブメーカーとして、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する世界有数の企業グループに成長しました。

※1983年度以前はキッツ単体の売上高



初代社長
北澤 利男
(在任期間:1951~1985年)



2代目社長
清水 雄輔
(在任期間:1985~2001年)

創業 — 生産・販売体制を構築

- 1951年
 - 北澤利男が株式会社北澤製作所を創業
 - 長坂工場が完成
青銅製バルブの製造・販売を開始
- 1952年
 - 全国代理店会を組織し
全国市場への流通体制を確立
- 1959年
 - 黄銅棒の生産を開始

品種を拡大、総合バルブメーカーに

- 1962年
 - 社名を株式会社北澤バルブに変更
- 1967年
 - ダクタイル鑄鉄製バルブ、ステンレス鋼製バルブの製造・販売を開始
- 1968年
 - バタフライバルブの製造・販売を開始
- 1969年
 - 鑄鉄製バルブの製造・販売を開始
- 1974年
 - 鑄鋼製バルブの製造・販売を開始
- 1975年
 - 社名を株式会社北沢バルブに変更
- 1977年
 - 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1978年
 - KITZが商標登録となる

信頼のブランド「KITZ」を確立

- 1989年
 - 日本企業で最初に長坂工場と伊那工場が「ISO9001」の認証を取得
- 1991年
 - スペインのボールバルブメーカーISO社(現KITZ Corporation of Europe, S.A.)がキッツグループに入る

History



1951年
創業当時の長坂工場。社員12人、企業というより町工場というにふさわしい門出であった。



1962年
我が国で初めて黄銅鍛造バルブFH、FSの製造・販売を開始。



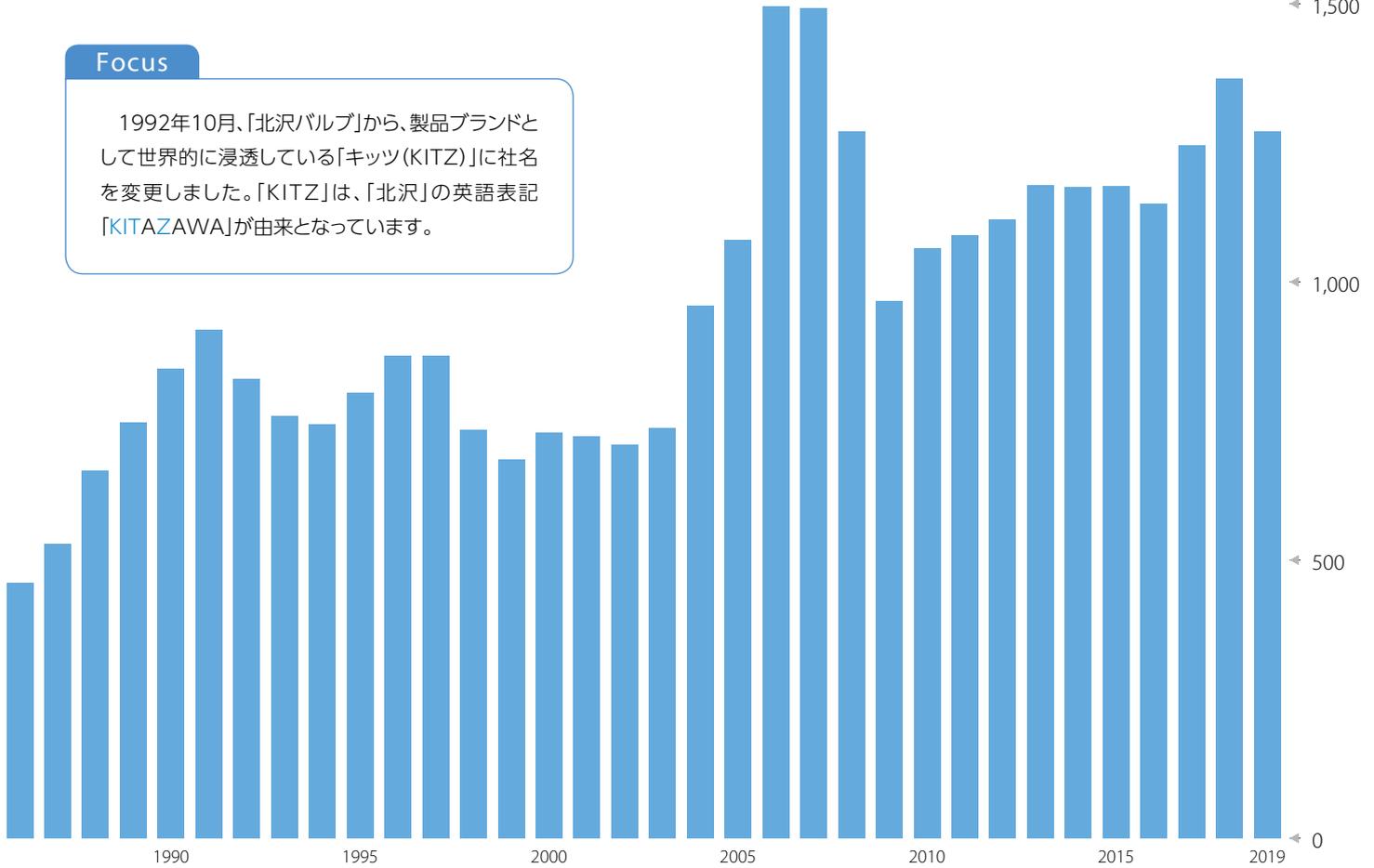
1980年
青銅製バルブのハンドルデザインに「菊ハンドル」を採用(P29 Focusをご覧ください)。



1984年
東京証券取引所市場第一部に上場。

Focus

1992年10月、「北沢バルブ」から、製品ブランドとして世界的に浸透している「キッツ(KITZ)」に社名を変更しました。「KITZ」は、「北沢」の英語表記「KITAZAWA」が由来となっています。



3代目社長
小林 公雄
(在任期間:2001~2008年)



4代目社長
堀田 康之
(在任期間:2008年~)

選択と集中を加速、グローバル化を推進

1992年
●社名を株式会社キッツに変更、千葉・幕張新都心に本社を移転

1995年
●水道用バルブメーカー株式会社清水合金製作所がキッツグループに入る

2001年
●旧ベンカングループから半導体関連事業を譲り受ける

2002年
●保有資産の減損と不振事業の再構築を実行

2004年
●伸銅品事業及びMF(マイクロフィルタ)事業を分社

2009年
●ドイツのボールバルブメーカー Perrin GmbHがキッツグループに入る

2015年
●インドの工業用バルブメーカー Micro Pneumatics Pvt. Ltd. がキッツグループに入る

●ブラジルの工業用ボールバルブメーカー Metalúrgica Golden Art's Ltda.がキッツグループに入る

2018年
●韓国の工業用バタフライバルブメーカー Cephaz Pipelines Corp.がキッツグループに入る



1999年
環境配慮型鉛レス快削性黄銅合金・青銅合金「KEEPALLOY (キーパロイ)」を発表。



2004年
東洋バルブ株式会社がキッツグループに入る。



2012年
水素ステーション用超高压ボールバルブを開発、販売を開始。

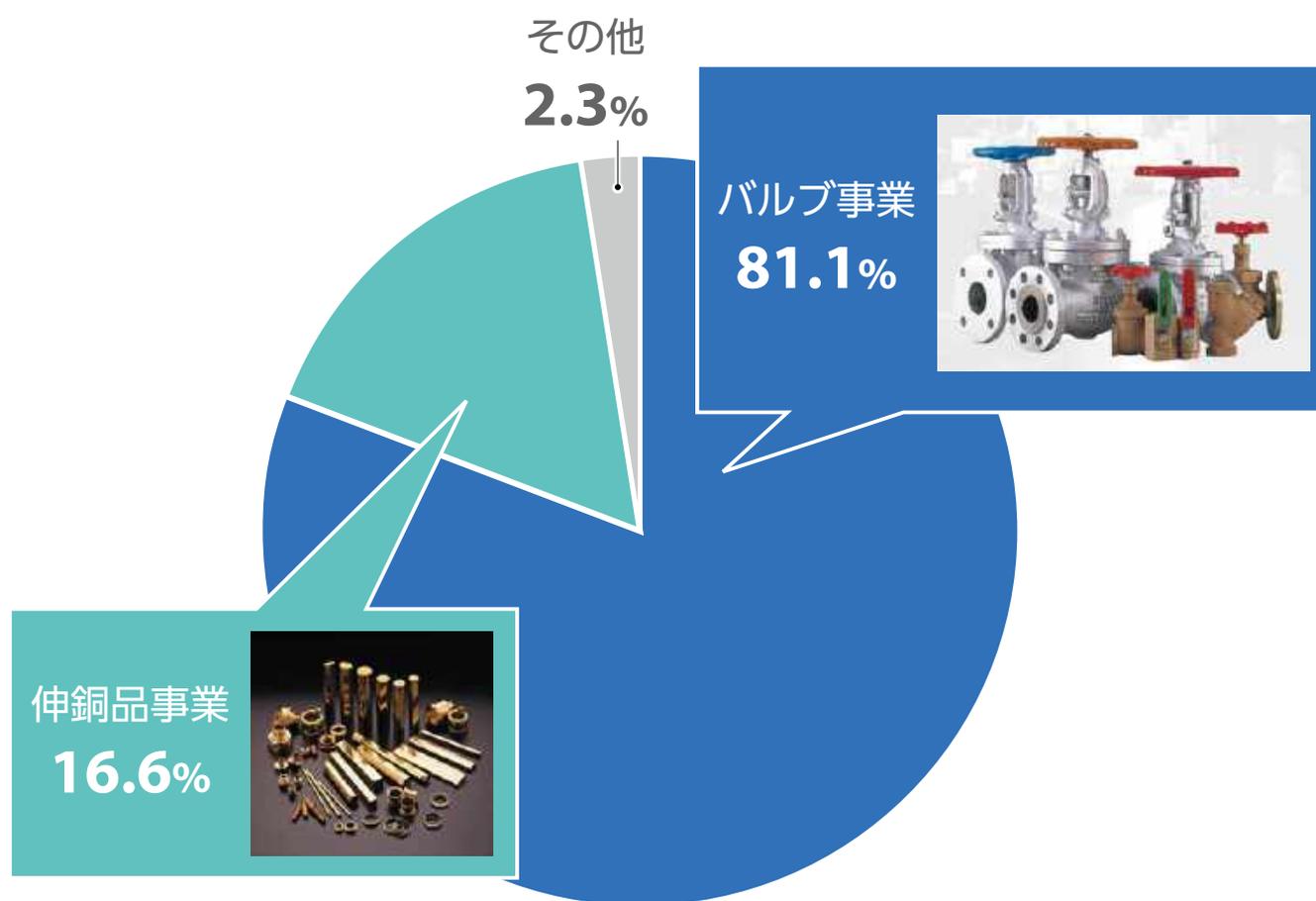


2019年
2019年3月期の連結営業利益が117億13百万円となり、過去最高益を更新。

事業セグメント

キッツグループは、流体制御機器であるバルブを中心に、継手、浄水器及び工業フィルターを製造・販売するバルブ事業、水栓金具やガス機器、家電製品の部材などの素材として使用される伸銅品の製造・販売を行う伸銅品事業、ホテルなどを運営するその他の事業を展開しています。

2020年3月期の売上高構成比は、バルブ事業81.1%、伸銅品事業16.6%、その他2.3%です。これからもバルブを中心とした流体制御機器の総合メーカーとしてさらなる成長を目指します。



(2020年3月期売上高構成比)

バルブ事業

売上高構成比 **81.1%**

強み

総合バルブメーカーとして幅広く製品を提供

多くのバルブメーカーが限られた市場・分野に特化した
り、材質や形状を絞って製品を製造・販売したりする中で、
キッツグループは、青銅・黄銅やステンレス鋼、鋳鉄、鋳鋼な
どの様々な材質や形状のラインナップを有し、私たちの生
活空間から産業分野まで、総合バルブメーカーとしてあら
ゆるフィールドに多彩な製品を提供しています。

高品質のKITZブランドを確立

グループ内に、バルブの主要材料に対応する鑄造設備を
持ち、素材の選別から鑄造、加工、組立、検査までの一貫生
産体制を基本に製品づくりを行っています。素材からの品
質保証体制を築くことにより、「KITZ」ブランドは、信頼のブ
ランドとしての地位を確立しています。

高い市場占有率

国内市場においては、日本全国をカバーする代理店網に
より、お客様の声に即応できる強固な販売ネットワークを確
立しています。また、青銅・黄銅製及びステンレス鋼製バル
ブは、特に高いシェアを確保しています。



バルブとは

バルブは、配管内の流体（水・空気・石油・ガス
など）を流したり、止めたり、流量をコントロール
する機能を持つ「流体制御機器」の総称です。

バルブの起源は、紀元前1000年頃の古代エ
ジプト遺跡から発掘された、木製のコックまでさ
かのぼることができます。1800年代半ばに紡
績用ボイラーが輸入された頃、日本で金属製の
バルブが初めて使われました。明治になり、水道
事業や都市ガス事業がスタートしたことに伴い、
日本でバルブの製造が始まりました。

今日では、上下水道、給湯、ガス、空調など、私
たちの身近な生活フィールドから、石油、化学、
医薬品、食品など、あらゆる産業分野の生産プ
ロセスに至る様々なパイプに接続され、重要な
役割を担っています。私たちは日常生活の中で
その存在を意識することはあまりありませんが、
バルブは人々の暮らしを陰からしっかりと支え
ています。



伸銅品事業

売上高構成比 **16.6%**

強み

長年培ってきた合金技術を活かした新素材開発

バルブの素材となる黄銅棒の製造からスタートした事業
です。現在では、マーケットニーズや時代の要請に応え、耐
脱亜鉛腐食黄銅棒や鉛レス黄銅棒など、人にも環境にも優
しい新素材の開発・販売を積極的に行っています。

その他

売上高構成比 **2.3%**

強み

上諏訪温泉で最大級の規模を誇るホテルを運営

長野県諏訪市の「ホテル紅や」を中心とするサービス関
連の事業です。ホテルの他、中央自動車道（下り）諏訪湖
サービスエリア及び上信越自動車道（上り）東部湯の丸
サービスエリアも運営しています。

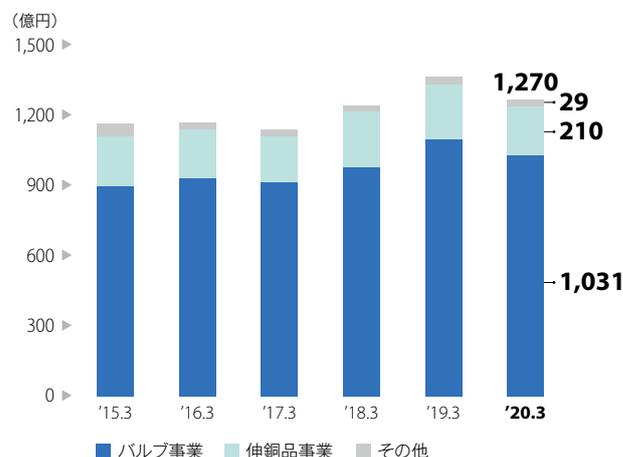
数字で見るキッツグループ (2020年3月31日現在)

売上高

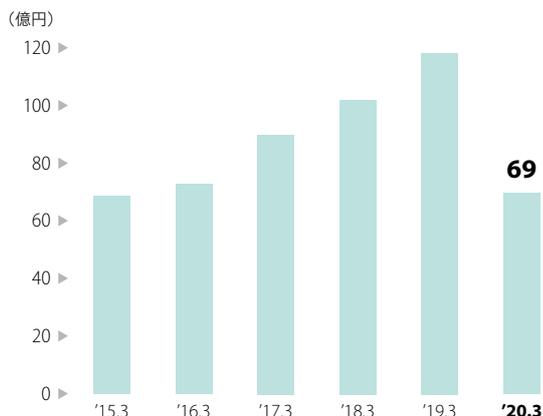
1,270 億円

2020年3月期の売上高は、前期比7.0%減の1,270億90百万円となりました。セグメント別では、バルブ事業1,031億円(前期比6.2%減)、伸銅品事業210億円(前期比10.9%減)、その他29億円(前期比3.7%減)となりました。

※詳細はP.11「社長メッセージ」をご覧ください。



営業利益



69 億円

2020年3月期はバルブ事業、伸銅品事業ともに減益となりました。既存製品に加え、お客様が必要とする製品をいち早く開発し市場に投入するなど、売上の拡大を図るとともに、グローバル調達、内製化、生産性向上などによる製造コスト削減に引き続き取り組んでまいります。

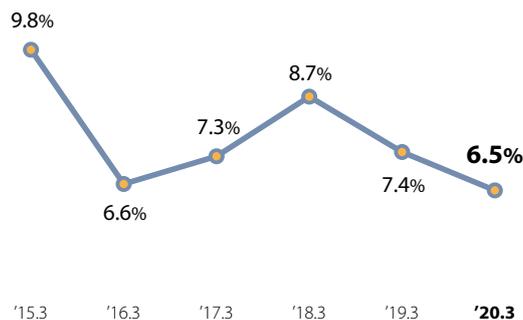
※詳細はP.11「社長メッセージ」をご覧ください。

ROE

6.5%

持続的な利益成長を目指す一方、2019年4月から6月にかけて239万98百株、2020年3月に43万95百株の自己株式の取得を行うなど、ROEのさらなる向上に取り組んでいます。なお、2020年3月期は、親会社株主に帰属する当期純利益の減少により、ROEは6.5%となりました。

※詳細はP.15「財務担当役員メッセージ」をご覧ください。

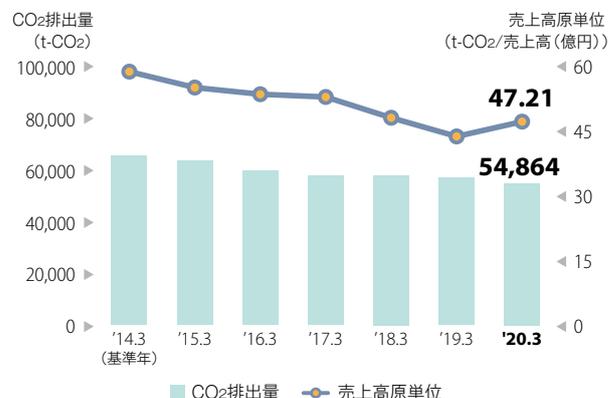


CO₂排出量

54,864 t-CO₂

キッツグループは、事業活動から排出されるCO₂低減の目標値を設定し、地球温暖化防止に向けて取り組んでいます。

※1. CO₂排出量・売上高原単位は、キッツ及び国内グループ会社の数値を表示しています。
 ※2. 詳細はP.46「環境活動／安全衛生活動」をご覧ください。



グローバルネットワーク



18カ国

キッツグループの初の海外拠点として、1984年にアメリカに販売会社 KITZ Corporation of America を設立しました。現在では、世界18カ国に生産と販売・マーケティングの拠点を置き、グローバルなネットワークを構築しています。

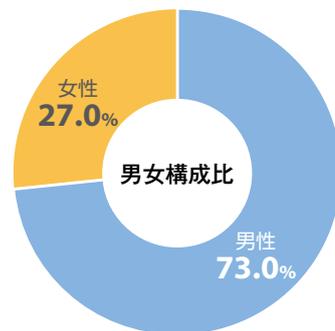
※詳細はP.27「広範で強固な販売ネットワーク」をご覧ください。

連結社員数

5,048人

キッツグループでは、性別や年齢、国籍にかかわらず、多様な人材が活躍しています。企業の規模拡大に伴い、社員数も増加しています。

※詳細はP.51「人材を支える取り組み」をご覧ください。



育児休業取得延べ人数 (キッツ単体累計)



多くの社員が育児休業を取得し、職場復帰を果たしています。また、育児のための短時間勤務や有給休暇の時間単位での取得など、社員の育児と仕事の両立を後押しするための環境づくりを進めています。

※1. 1995年以降の育児休業取得者の延べ人数を表示しています。
 ※2. 詳細はP.51「人材を支える取り組み」をご覧ください。

163人

ステークホルダーの皆様へ

社長メッセージ



グループの総力を結集して
企業価値のさらなる向上を目指します。

堀田 康之
代表取締役社長

「コーポレートレポート2020」の発行にあたり

キットは、2016年より統合報告書(コーポレートレポート)を発行しています。財務情報、非財務情報を包括的・体系的に統合し、キットグループの経営戦略、成長性などをご理解いただくためのコミュニケーションツールとして作成しています。

作成にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)が提示す

るフレームワークを参考に、キット独自のストーリーにより、短期・中期・長期でのキットグループの価値創造に関する内容で構成しています。

キットは、株主や投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとの対話のためのツールとして本レポートを活用し、さらなる企業価値の向上に努めてまいりたいと考えています。また、経営の透明性の確保を図るとも

キットグループの1年

TOPICS



に、社会的課題解決への取り組みをご理解いただけるよう、本レポートのみならず、ウェブサイトや有価証券報告書、株主通信及び環境報告ダイジェストなどのツールを通じて適時・適正な情報の開示を行ってまいります。

キッツグループの目指す姿

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により持続的に企業価値の向上を図ることを企業理念に掲げ、行動指針(Do it KITZ Way)として、Do it True(誠実・真実)、Do it Now(スピード・タイムリー)、Do it New(創造力・チャレンジ)を定めています。これらを体現するために社員一人ひとりが理解し、実践すべきことは、まず、コンプライアンスをさらに徹底し、内部統制や法令遵守の体制を強化し、より信頼される企業となることです。そして、世界的な視野を持ち、グローバルレベルの知識、技能、教養を身につけた人財を育成していくこと、グローバル競争で勝ち残るため、権限委譲を進め、責任をより明確にし、スピーディーに意思決定をすることであると考えています。さらに、リードタイムの短縮、歩留まり改善などの実行により、生産性を極限まで追求すること、また、お客様の要求に迅速に応え、商品のみならず、営業、サービスなど、あ

らゆる活動の品質を向上させることであると考えています。キッツは、これらをベースに企業活動を実践してまいります。

当期(2019年度)の連結業績の概要

当期の連結売上高は、前期比95億47百万円減の1,270億90百万円と大幅な減収となりました。バルブ事業は、前期比68億54百万円減の1,031億14百万円となりました。国内市場では、市中在庫調整の影響により主力の青銅・黄銅製バルブの売上が減少し、海外市場においても、米中貿易摩擦の長期化により設備投資が停滞しました。前期業績をけん引した半導体製造設備向けも、市況低迷により国内外で売上が大幅に減少しました。伸銅品事業は、売価に影響を与える原材料相場が前期と比較して下落した他、販売量の減少もあり、前期比25億81百万円の減収、また、その他(サービス関連の事業)も前期比1億10百万円の減収となりました。

損益面においても、バルブ事業における販売量減少の影響が大きく、減価償却費の増加などもあり、バルブ事業の営業利益が前期比43億11百万円減の106億27百万円となりました。伸銅品事業は、原材料相場変動の影響に加



え、新工場における量産を開始したことに伴い、減価償却費及び製造経費が増加し、前期比2億94百万円の減益となり、その他(サービス関連の事業)も、前期比1億1百万円の減益となりました。これらの結果、連結営業利益は前期比47億63百万円減の69億50百万円となりました。新基幹システムの稼働開始に伴って増加した減価償却費が営業利益を押し下げる要因となりましたが、EBITDA(営業利益+減価償却費・のれん償却費)については、137億18百万円を確保することができました。経常利益は、前期比46億42百万円減の72億41百万円となり、過去最高の業績(営業利益・経常利益)となった前期からは一転して厳しい結果となりました。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益については、前期に計上したのれん等の減損損失(24億85百万円)がなくなったことにより、前期比6億88百万円減の49億37百万円となりました。

成長に向けた投資を継続

厳しい経営環境ではありましたが、当期においても、今後の成長に向けた投資を積極的に行いました。まず、アジア地域のミドルクラス(ボリューム)ゾーンへの本格参入に

向け、マレーシアの大手バルブメーカー及び販売代理店であるUnimech Group Berhadの発行済株式25.1%を取得するとともに、事業提携契約を締結しました。また、伸銅品事業を担う株式会社キッツメタルワークスでは、生産性改善のため、老朽化した機械設備の更新及びラインの統廃合を決定し、キッツグループが伸銅品事業を開始して以来、最大規模となる設備投資を実施、2019年10月に新設備が本格稼働を開始しました。各種フィルターを扱う株式会社キッツマイクロフィルターでは、工業フィルターの生産能力を拡張するため、キッツ茅野工場の敷地内に新工場を建設しました。また、ステンレス鋼製バルブを製造するKITZ Corporation of Taiwanにおいても、精密鋳物工場を新たに建設しました。

SDGs/ESGへの取り組み

キッツグループは、ESGの視点を経営に反映させることにより、中長期的かつ持続的な成長を実現するとともに、地球環境及び社会が抱える様々な課題に取り組んでいます。2019年7月にはサステナビリティ推進室を設置し、SDGs/ESGに対する取り組みをより強力に進めていく体制を整えました。また、2020年3月には、サステナビリティ経営を進めていく上で重要となるコミットメント及びスローガンを策定、また、ESGへの取り組み項目と関連性の強いSDGsの目標を見える化しました。

コーポレート・ガバナンスの強化については、これまで社外取締役は3名の体制でしたが、2020年6月より1名増員し、取締役8名中、半数の4名が社外取締役となりました。より一層の監督と執行の分離により、経営の透明性の確保、そして、長期的な企業価値の増大に向けた最適な企業統治体制を構築してまいります。

株主還元方針

連結配当性向については、これまで、親会社株主に帰属する当期純利益の25%前後を望ましい水準としていましたが、当期より10%引き上げて35%前後とし、配当による株主還元の一層の充実を図ることとしています。当期は、1株当たり年間20円(過去最高、前期と同額)の配当を実施しました。

自己株式の取得については、株式市場や株価の動向、手

2019年度実績

	2018年度実績	2019年度実績
売上高	▶ 1,366億円	▶ 1,270億円
営業利益	▶ 117億円	▶ 69億円
EBITDA	▶ 168億円	▶ 137億円
ROE	▶ 7.4%	▶ 6.5%
EPS	▶ 58.50円	▶ 53.06円

○セグメント別売上高

バルブ事業	▶ 1,099億円	▶ 1,031億円
伸銅品事業	▶ 236億円	▶ 210億円
その他	▶ 30億円	▶ 29億円

○セグメント別営業利益

バルブ事業	▶ 149億円	▶ 106億円
伸銅品事業	▶ 2.8億円	▶ △0.06億円
その他	▶ 0.9億円	▶ △0.1億円

元資金の状況等を勘案し、適宜検討することとしています。当期においては、取締役会の決議に基づき、283万93百株の自己株式を取得しました。1株当たり配当金、連結配当性向及び連結総還元性向の推移は、下のグラフの通りとなります。

今期(2020年度)の業績見通しについて

新型コロナウイルスの感染拡大により、キッツグループを取り巻く経営環境は大きく変化しています。今後、市場の状況が一変することも十分に考えられ、適正かつ合理的な通期業績を見通すことは非常に困難であることから、2020年3月期決算の発表時においては、今期の業績予想の開示を見合わせました。不透明な状況の中、経費削減、設備投資計画の見直しを行うとともに、手元資金を積み増す他、棚卸資産の削減等によりキャッシュ・フローを確保してまいります。

なお、2020年6月29日に開催された第106回定時株主総会における「定款一部変更の件」の承認をもって、当社は、決算期(事業年度末日)を現在の3月から12月に変更しました。これにより、今期は、9カ月の変則決算となります。

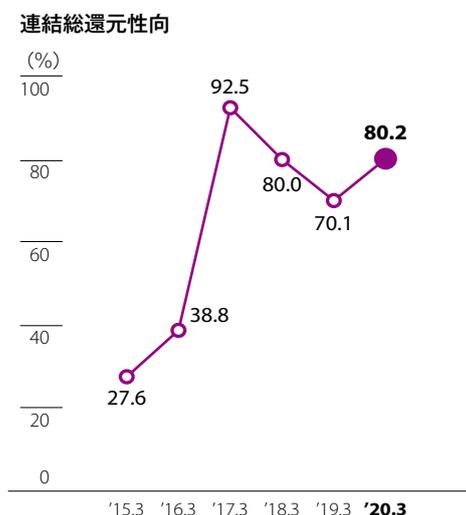
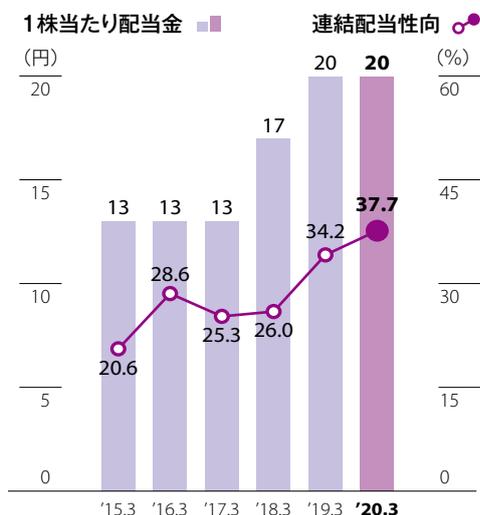
メーカーとしての供給責任を果たす

新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済に深刻な影響を及ぼしており、完全に終息するまでには数年かかると



の見方もあります。キッツグループといたしましては、社員及び関係者の皆様の感染リスクの軽減と安全確保を最優先とした上で、メーカーとしての供給責任を果たしてまいり所存です。

キッツは、1951年に株式会社北澤製作所としてスタートし、2021年に創業70周年の節目を迎えます。創業当時の社員は12名。企業というより町工場というにふさわしい門出でしたが、今日では連結子会社36社、社員数はグループで5,000名を超えるまでに成長しました。また、18カ国に拠点を置き、日本以外の国で勤務する社員はグループ全体の50%を超えるなど、グローバル化も大幅に進みました。100年企業を目指し、これまでの歴史を大切に守りつつ、さらに成長を続け、新たな歴史を作ってまいります。皆様からの変わらぬご支援をお願いいたします。





最適資本構成の視点をベースに
事業の継続性・財務の安定性を図ってまいります。

葛城 健志

執行役員 管理本部副本部長

当期(2019年度)の取り組み

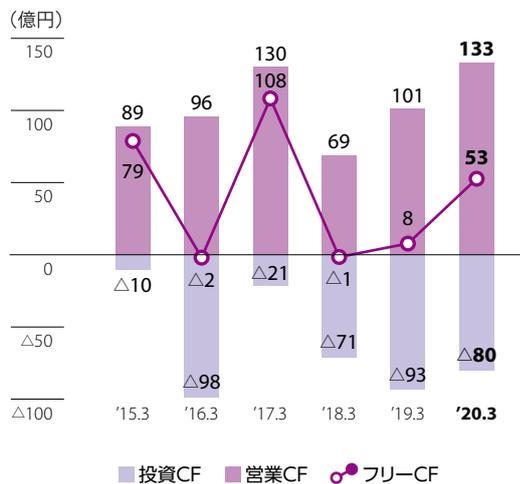
当期は、過去最高となる117億円の営業利益を計上した前期から一転、大幅な減収減益となりました。一方で、マレーシアの大手バルブメーカー及び販売代理店であるUnimech Group Berhadの株式を取得し、伸銅品事業では大規模な設備更新投資を実施するなど、成長投資を着実に実行しました。さらに、新基幹システムの運用を開始し、今後、グローバルベースでのタイムリーな情報把握、業務効率化などの導入効果を見込んでいます。

キャッシュ・フロー面では、利益の減少はありましたが、売

上債権等の運転資本の圧縮に取り組み、営業キャッシュ・フローは前年比約1.3倍となる133億円のフリー・キャッシュ・フローを確保することができました。

今期(2020年度)より、決算期を3月から12月に変更します。当社の海外グループ会社のほとんどは12月決算会社であり、これまで3ヵ月ずれた状態で連結していたため、業績や環境の変化をリアルタイムで連結決算上に反映することができず、迅速な意思決定や経営計画策定等に支障をきたしていました。決算期を統一することにより、連結業績を適時・的確に把握し、グローバル企業としての経営体制をより一層強化することができます。

キャッシュ・フロー 推移



中期財務戦略・資本政策

キッツは、中長期的なROE等の資本効率目標や株主還元を重視するとともに、経営環境の激変時や将来に向けた成長戦略投資に備えるため、投資リターンに資金調達力を加味した最適資本構成を、財務戦略・資本戦略として掲げています。

具体的には、ROE等の資本効率目標の向上を図るとともに、資産構成に応じたリスク度を加味した、事業リスク対応力の指標としての自己資本比率の目標を55～60%程度としています。また、機動的な資金調達を実行できるよう、取引銀行各行と良好な関係を維持する一方、公募社債による資金調達にも対応できるよう、社債格付A格の維持に努め

ており、格付投資情報センター(R&I)からA-格付を取得し、総額200億円の新規社債発行枠の登録を行っている他、日本格付研究所(JCR)からA格付を取得しています。

今期(2020年度)に向けて

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今期は、世界経済が減速し、当社を取り巻く経営環境は厳しさを増していくことが予想されます。

このような状況の中、有事モードでの事業の継続性・財務の安定性を最優先に、設備投資と戦略投資の選別・優先順位の見直しを行うとともに、リードタイムの改善による棚卸資産の削減等により、フリー・キャッシュ・フローの確保に努めてまいります。

また、資金面のリスク対応として、連結現預金を積み増す他、主要銀行各行との間で締結する短期借入に関する特定融資枠(コミットメントライン)契約(総額135億円、前年比35億円増額)により、合計で月平均売上高の3ヵ月程度の手元流動性の確保に努めるとともに、グループ内の資金の効率的運用・調達を図るグローバルCMS*の仕組みも活用しながら緊急時に備えてまいります。

*CMS:キャッシュ・マネジメント・システム

グローバル連結経営の強化

キッツグループは、世界各地に複合機能を持つ拠点を展開する他、海外M&Aにも積極的に取り組むなど、海外グループ会社を含めたグローバル化を推進しています。

決算期の統一や新基幹システムの稼働によるタイムリーな製品群別の製販一貫損益管理やグループ会社の経営管理の強化等をさらに推し進め、資金を通じたグループガバナンスにより、グローバル連結経営とリスクマネジメントのさらなる強化にも取り組んでまいります。

コロナ収束後の社会・経済の構造変化を見極めながら、中長期的な観点で資本効率の向上と、持続的な企業価値の向上に取り組んでまいります。

株主還元

キッツは、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題と位置付け、配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準としています。当期は、1株当たり20円の配当を実施し、連結配当性向は37.7%となりました。また、自己株式の取得を含めた連結総還元性向は80.2%となりました。

2020年度 財務戦略・資本政策

事業の継続性・財務の安定性を最優先：投資の選別・優先順位の見直し
手元流動性の確保：連結月商の3ヵ月程度(銀行借入金のコミットメントラインを含む)

営業キャッシュ・フロー

設備投資

- ・新技術(自動化、IoT、AI)
- ・生産合理化・コストダウン
- ・環境対応

株主還元

配当性向 35%
自己株式取得は、財務安定性・手元資金流動性・投資資金の状況も勘案し適宜検討

戦略投資・借入返済

戦略的なM&A・業務提携
・エリア戦略
・製品、技術戦略
有利子負債の返済

最適資本構成の確保と機動的な資金調達

- 中長期ROE目標：2030年ビジョン12%
- リスク対応：自己資本比率目標 55~60%程度(2020年3月:56.0%)
銀行からの短期借入金コミットメントライン 135億円(前年比+35億円)
- 社債格付：A格維持(現状格付 R&I：A-(2019年7月) JCR：A(2019年6月)
社債発行予備格付(R&I)：A-(200億円；2018年10月~2020年10月)

事業の概要と戦略ーバルブ事業

バルブ事業統括本部長メッセージ



水やエネルギーなどの安定供給を支え、
安心して暮らせる環境を創造します。

河野 誠

取締役常務執行役員 バルブ事業統括本部長

当期(2019年度)のバルブ事業の業績

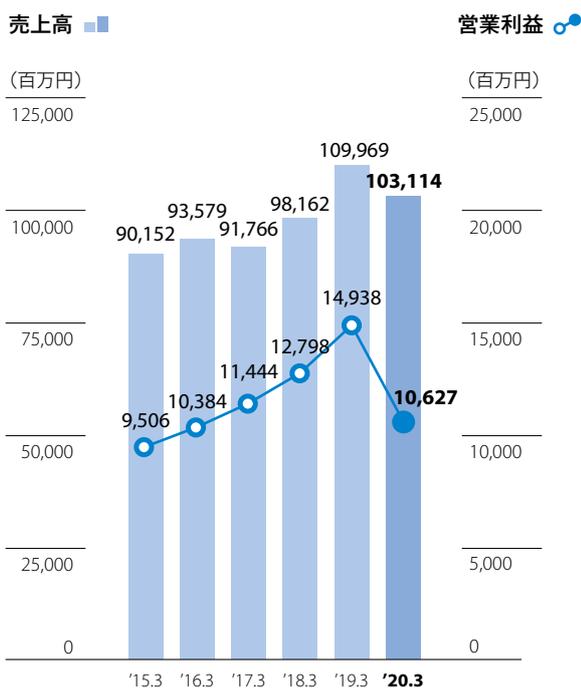
当期の国内市場は、工業用バルブについては前期並みの売上が確保できたものの、建築設備向けを中心に代理店の在庫調整が想定以上に長引き、主力の青銅・黄銅製バルブの売上が減少しました。海外市場においても、欧州では

代理店からの在庫発注に回復が見られたものの、米中貿易摩擦の長期化により設備投資が停滞した他、前期にあった中東の大型天然ガス処理プラントへの納入がなくなったこともあり減収となりました。半導体製造設備向けは、第1四半期を底に徐々に回復したものの、当初想定した市況回復には至らず、国内外で売上が大幅に減少しました。

損益面では、建築設備向けの販売量の減少と半導体製造設備向けの大幅減収が大きく、また、青銅・黄銅製バルブを生産する KITZ (Thailand) Ltd.においても生産量の減少などにより収益性が悪化しました。加えて、当社において新基幹システムが稼働を開始したことに伴って発生した減価償却費が営業利益を押し下げる要因となりました。

これらの結果、バルブ事業セグメントの売上高は、前期に初めて到達した1,000億円台は維持したものの、前期比68億54百万円減の1,031億14百万円となりました。営業利益も前期比43億11百万円減の106億27百万円と、厳しい状況で推移しました。

バルブ事業セグメントの売上高・営業利益



※バルブ事業の営業利益は全社費用等消去前の数値

中長期の成長に向けて

厳しい事業環境ではありましたが、中長期の成長に向けた施策を実行しました。まず、アジア地域のミドルクラス(ポリウム)ゾーンへの本格参入に向け、マレーシアの大手バルブメーカー及び販売代理店であるUnimech Group Berhad(以下、Unimech)と株式譲渡契約及び事

業提携契約を締結しました。Unimechは、アセアン・中国地域を中心に幅広い販売網と調達力を持っており、また、独自ブランド(ARITA)のバルブを販売しています。キッツグループの技術力、Unimechの販売力及び両社のブランド力を融合し、シナジーを創出してまいります。ステンレス鋼製バルブの製造を担うKITZ Corporation of Taiwanにおいても、鋳物の内製化による生産リードタイム短縮、在庫低減及び中国への一極集中によるリスクの回避を目的として、精密鋳物工場を新たに建設しました。各種フィルターを扱う株式会社キッツマイクロフィルターにおいては、半導体関連市場の拡大を受けて工業用フィルターの「ポリフィックス」の売上が好調を維持しています。IoT、AI、ロボットに代表される半導体関連市場は今後の成長が見込まれ、さらなる需要の拡大が期待できることから、生産能力拡大のため、キッツ茅野工場の敷地内に新工場を建設しました。



キッツマイクロフィルターの新工場

パッケージユニット型水素ステーション事業への参入

キッツは、次世代エネルギーの本命と言われる水素にいち早く着目し、2012年より、水素ステーション用バルブ市場に参入しており、特に、当社が開発した、低圧力損失、優れた封止性能と耐久性を有する水素ステーション用超高压ボールバルブについては、その性能を高くご評価いただいています。2018年には、小型パッケージユニットを用いた水素ステーションを自家用設備として長坂工場に建設し、約2年にわたり、運用の実証及び技術の蓄積を行ってきました。その成果を踏まえ、パッケージユニット型水素ステーション事業への参入を決定し、2020年4月より販売を開始しました。経済産業省のロードマップでは、2020年に

160カ所、2025年に320カ所、2030年には900カ所の水素ステーションを整備する計画となっており、今後さらなる市場の拡大が見込まれます。当社の高い性能と優位性を広く示す製品戦略のもと、水素インフラの整備及び水素エネルギーの普及に貢献するとともに、より一層の収益拡大につなげてまいります。



300Nm³/h 商用スタンダードパッケージユニット(イラスト)

今期(2020年度)の事業方針

今期は、新型コロナウイルス感染拡大など新たなリスク材料も加わり、世界景気の不透明感が増しているものの、上期は国内石油化学ユーザーの大型定修工事、下期にはIT関連投資の回復も見込まれています。そのような環境の下、今期は事業戦略の実行に拍車をかけていきます。

まず、アジアにおけるミドルクラスゾーンでの事業拡大です。その実現に向けて、これまでキッツ本社に置いていた組織、アジア汎用弁戦略室の拠点をアセアンの地域統括会社(シンガポール)に移しました。現地に密着した施策の策定を行い、Unimechとのシナジーを早期に実現してまいります。また、新たに設けた営業推進部を中心に、国内工業市場の重要性の高いエンドユーザーをイニシャル(受注)からアフター(受注後のメンテナンス)までフォローし、良好な関係を継続するとともに、顧客ニーズを掘り下げ、競合他社からの切り替えや新製品の開発に結び付けてまいります。そして、キッツグループの主要市場である建築設備分野に向けては、営業活動の効率化と市場変化に対応した新製品の開発を力強く推進するため、建築設備統括部を新設しました。これらの部門が、機能別組織やグループ会社を横断するとともに、プロダクトマネジメントセンターと連携して活動を進めることにより事業拡大につなげてまいります。関係部門やグループ各社と情報を共有し、キッツグループ一丸となって目標の達成に向けて邁進してまいります。

KITZ Group + Water

生命の源である「水」

— 安心してお使いいただくために —

水の安定供給を支える

水は、私たち人類をはじめ、植物や動物など、地球上の全ての生き物にとってなくてはならない生命の源です。キッツグループは、安心してお使いいただける商品・サービスの提供を通して、清潔で安全な水の安定供給を支え、人々のゆたかな暮らしに貢献しています。

水処理技術の進化

キッツグループの歴史は、水からスタートしました。長年にわたって水の流れを制御する「給配水」を担う商品を提供し続けてきました。その後、膜を使って水をきれいにする「浄水」の技術、海水などの飲用に適さない水を浄化・淡水化する「造水」の技術へと、キッツグループの“水の安心を高める”技術は着実に進化しています。

膜ろ過浄水装置

清水合金製作所

膜分離浄水システムを活用し、安全でおいしい水をつくる装置。



メータユニット

キッツ

水道メータと継手類をユニット化。



青銅・黄銅製バルブ

キッツ 東洋バルブ 三吉バルブ

オフィスビル、ホテルなどの建築設備の空調や衛生、工場の生産設備や工作機械、装置など、あらゆる分野で使用される。



オフィスビル、ホテル、病院

集合住宅

上水道

下水道

水源

浄水設備

給配水設備

ポンプ

ソフトシール仕切弁

清水合金製作所

水道管路用として最も多く使われている。



給水装置用バルブ

キッツ

給水管と配水管をつなぐ分水栓、止水栓、金属継手など幅広い商品をラインナップ。



水に関する問題の解決に向けて

現在では、バルブからニッケル、鉛が溶け出すのを防ぐ表面処理技術や鉛レス銅合金材料など、環境に配慮した技術開発を積極的に行い、国際的な水質基準にんでいます。また、オゾン、紫外線及び光触媒により、水に溶けた有機物を分解する装置、あらゆる原水に対応する浄水装置や家庭用浄水器などの商品も展開しています。

世界では、水資源や水不足に関する深刻な問題が起きています。キッツグループは、全ての人々が清潔で安全な水を利用できるよう、グループの力を結集し、長年培ってきた経験、技術、商品、サービスを通して、世界の“水に関する問題”の解決に貢献していきたいと考えています。



給湯器用バルブ キット

コンパクトな省スペース型の給湯器に合わせて設計。



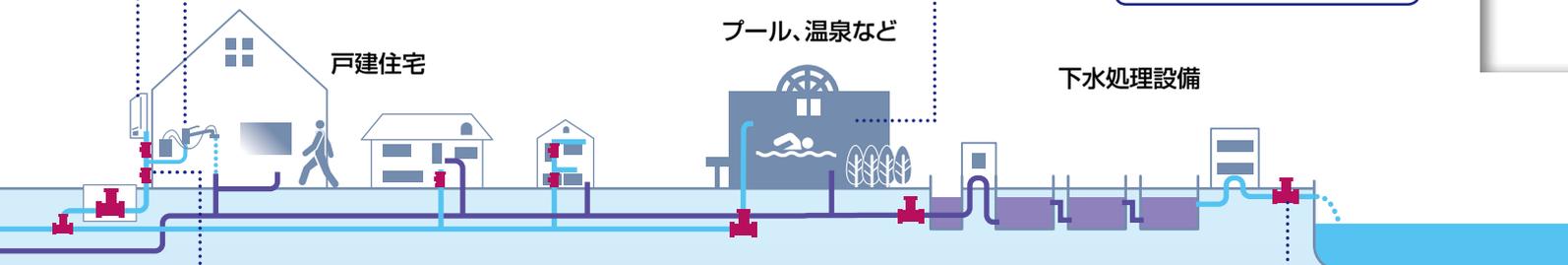
家庭用浄水器 キットマイクロフィルター

中空糸膜製造技術を応用した家庭用浄水器。



ピュアキレイザー 東洋バルヴ

オゾン・紫外線・光触媒を組み合わせ、促進酸化処理を用いた画期的な水処理装置。



給水設備用バルブ キット

鉛の浸出量を抑え、給水・給湯ラインの安全性を確保。



水処理施設用バルブ キット

ゲートバルブやボールチャッキバルブなど、下水処理の過程で必要とされる。



KITZ Group + Energy

産業を動かす大切なエネルギー資源である「石油、ガス」

—— 絶え間なく送り続けるために ——

エネルギーの安定供給を担う

石油、ガスなどのエネルギーは、欠かすことのできない大切な資源です。キッツグループは、石油精製・石油化学プラントやガスパイプライン、LNG(液化天然ガス)基地などのプロセスラインに、エネルギーの安定供給を担う商品を提供しています。

過酷な環境で流体を制御

石油・ガスプラントでは、高温・高圧の流体が配管を流れるため、過酷な環境に耐えられるバルブが求められます。キッツグループでは、流体の種類や温度、圧力など厳しい使用環境を想定した様々な試験や分析・評価を繰り返し、この厳しい条件をクリアした商品だけがラインナップに加えられます。

メタルシートボールバルブ

Perrin GmbH

高温流体や摩耗性流体にも対応可能。耐久性も高い。



ステンレス鋼製バルブ

キット

耐食性に優れ、化学プラントや石油化学工業で幅広く使用される。



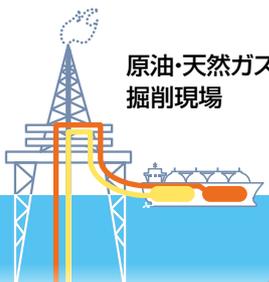
空気圧式・電動式自動操作バルブ

キット

アクチュエータを搭載した自動操作バルブ。



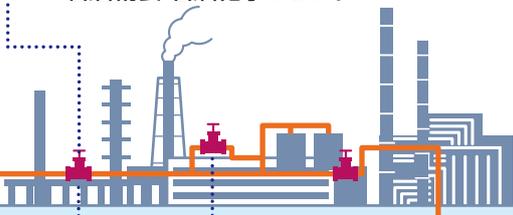
原油・天然ガス
掘削現場



原油

ガス

石油精製・石油化学プラント



3ピース・トラニオンボールバルブ

KITZ Corporation of Europe, S.A.

オイル及びガスをはじめ、石油精製から石油化学、化学までのエネルギー分野で幅広く使用される工業用ボールバルブ。



鋳鋼製バルブ

キット

各種プラントの高温・高圧の条件下での使用に適している。



小型自動操作バルブ

キット

産業用生産プロセスラインでの小口径配管ラインの自動化ニーズに対応。



クリーンなエネルギー社会に向けた製品開発

電気などのエネルギーを作る際、多くの場合、大量の二酸化炭素が発生しますが、二酸化炭素は地球温暖化などの気候変動にも影響を及ぼしており、その発生の抑制は、地球規模の課題です。

キットグループは、次世代エネルギーの本命と言われる水素を動力源とする燃料電池自動車に、高圧の水素を供給する水素ステーション用ボールバルブを国内のバルブメーカーとして初めて開発しました。また、2020年4月には、パッケージユニット型水素ステーション事業を開始しました。

再生可能かつクリーンなエネルギーが世界中の全ての人々に届くよう、環境に配慮した製品の開発に力を入れています。



全溶接形鍛鋼製ボールバルブ キット

漏れを確実に防ぐ安全設計のパイプライン用ボールバルブ。



水素ステーション用 超高圧ボールバルブ

優れた封止性能と耐久性を持つ水素ステーション用超高圧ボールバルブ。



高純度ガス用バルブ キットエスシーティ

クリーン、高耐久性のステンレス製ダイヤフラムバルブ及びペローズバルブ。



LNG(液化天然ガス)基地・
搬送設備



火力発電所



水素ステーション



半導体
製造設備



LNG用低温調節弁 ワイケイブイ

米・VALTEK INCORPORATED (現FLOWERVE CORP)の技術に基づいたLNG用低温調節弁。



低温用バルブ キット

LNG製造・受入れ・サテライト基地向けをはじめ、エチレンプラント、工業用低温ガスなどに対応。



精密ろ過フィルター キットマイクロフィルター

半導体や医療に貢献する微細孔径、低溶出の中空糸膜フィルター。



高付加価値を生み出す研究開発体制

時代が求める多様なニーズにお応えするため、「安全性」、「耐久性」、「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

研究開発のコンセプト

キットグループの開発設計部門は、「お客様に感銘的な創造商品を継続的に提供し、技術体質の強化とともに企業価値を持続的に向上させます」を行動指針として、積極果敢に研究開発に取り組んでいます。

■ コアテクノロジー

バルブの核となるシール技術、素材及び工法技術における一貫した要素技術開発

■ ソリューション提供

お客様や市場の困りごとに密着し、お客様に喜んでいただける商品・サービスを提供

■ スピード&グローバルネットワーク

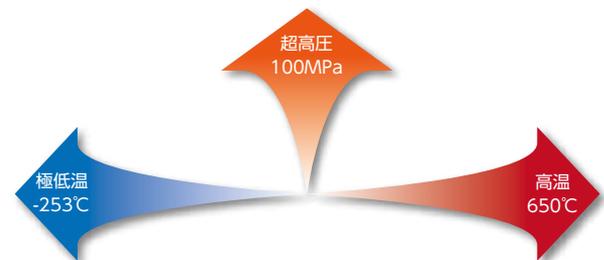
世界各地のお客様の多様なニーズにお応えする、国内外のグループネットワークを活用した迅速な製品開発

幅広い分野でライフラインを支える シール技術と素材開発

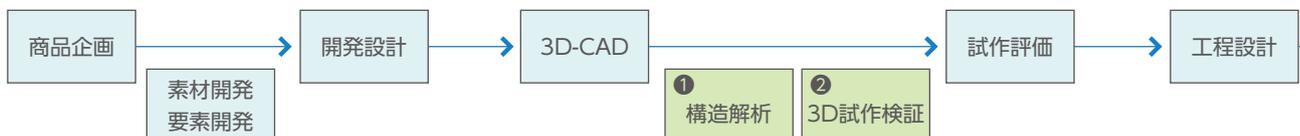
汎用バルブ単体の製造からスタートしたキットは、時代のニーズを先取りし、流体のオン/オフ制御から自動制御、そして単体から複合ユニットへと、高付加価値製品の開発に取り組んできました。

それを可能にしているのは、バルブの核となるシール技術と素材開発です。シール技術は、低圧から超高圧、極低温から高温までの幅広い分野に展開され、これまで9万種を超える製品を生み出してきました。また、長い歴史の中で培われてきたノウハウにより、最適な金属材料を自社で開発し、それを高い鋳造技術により製品化してきました。これらの技術は現在も進化しています。

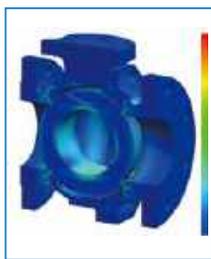
バルブの核となるシール技術



バルブの研究開発工程



流体解析



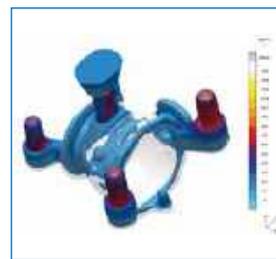
構造解析



② 3D試作検証

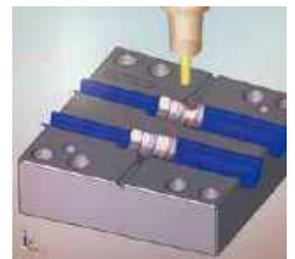
シミュレーションによる流体解析や応力等の構造解析を用い、製品の最適な構造を導き設計を行う。

3Dプリンター造形により、早期に試作品での検証が可能。お客様が触られるサンプル品としても活用。



③ 鋳造解析

凝固解析により鋳造に最適な型の方案設計を行う。



CAM

④ 型設計・製作

型設計を行ったCAM*データを加工設備に反映し、自社内で型を製作する。

世界のユーザーの信頼に応えるトップレベルのテクノロジー

キッツグループの開発設計部門は、建築設備、石油化学、クリーンエネルギー、水処理及び半導体等の幅広い分野で、お客様に価値を提供できるよう研究開発に取り組んでいます。

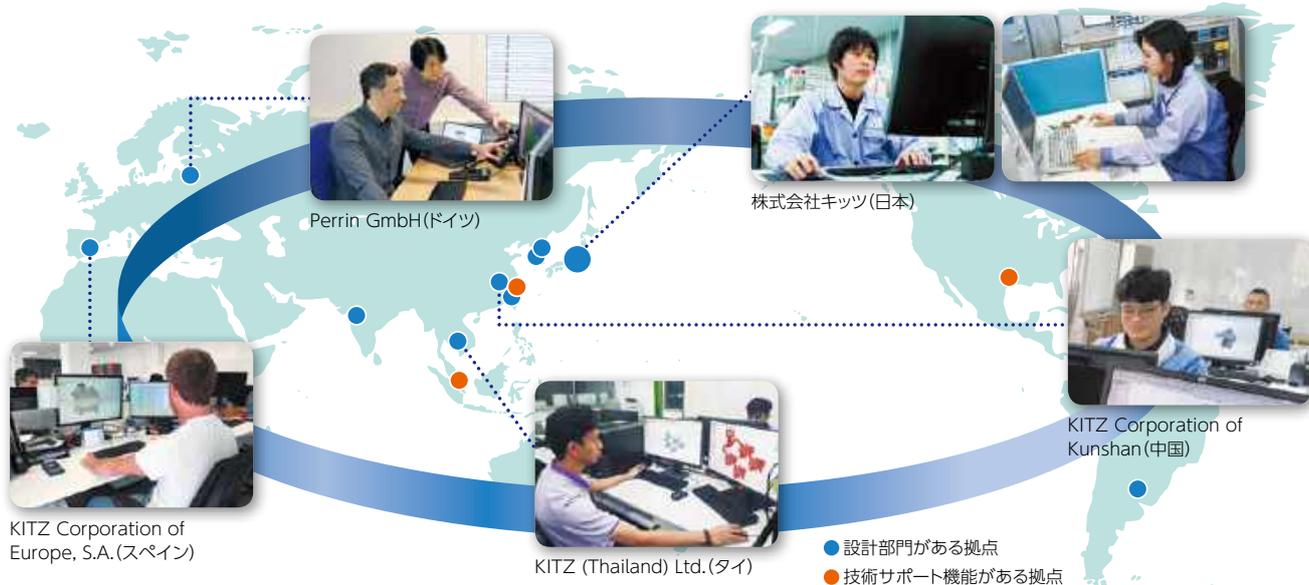
常にマーケットインの思想をベースに、高品質で独創的な製品をお客様にお届けするため、グループ一丸となって、高機能化・超精密化する製品技術・生産技術を育み、様々な分野で技術の種を开花させています。

グループのシナジーを最大に発揮するため、日本をは

じめ、欧州、米州、アセアン及び中国の技術者が協働し、グループウェア等のネットワークを活用しながら製品の開発設計を進めるなど、各地域の人財や技術を活かした世界最適地設計の技術体制を確立しています。また、各国の市場や法規制に適合する素材及び仕様による製品開発も展開しています。

時代が求める多様なニーズにお応えするため、技術者一人ひとりがスキルを高め、日々、価値創造に挑戦し続けることによって、卓越した「安全性」、「耐久性」、「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

世界の技術者の協働により進められる製品開発



⑤信頼性試験

あらゆる使用条件を想定した試験・分析を行う。



低温試験
LNGは低温の流体のため、低温状態を再現して試験を行う。



ファイアテスト
バルブのシール部材が完全に焼損するほどの火災にあっても、バルブとしての機能を維持することが可能であるかを確認する。



ブローオフ試験
高温・高圧の流体制御では、バルブの開閉時に大きな力が加わるため、使用限界条件下でのバルブの正確な作動を確認する。



ローエミッションテスト
国内では、唯一、API規格に基づくメタンガスによる試験設備を自社で保有。実際の流体を使用した漏れ試験を行う。

高品質を実現する生産体制

キットグループのモノづくりは、お客様が必要とする商品を「必要な時に」、「必要な量だけ」、「より良い品質で」お届けすることを基本としています。

素材からの品質管理を実現した一貫生産体制

キットグループは一貫生産を基本に考え、バルブの素材である鋳物(素形材)をコア技術と位置付け、鋳物から社内で生産しています。バルブの主要材料である青銅、鋳鉄、ダクタイル、ステンレス鋼、鋳鋼、それぞれの鋳造設備をグループ内で持つ一貫生産体制によって、素材からの品質保証体制の確立と多品種少量生産を実現しています。

「KICS」に基づく生産方式

マーケットインの発想によるモノづくりを支えているのが、「KICS(KITZ Innovative and Challenging System)」に基づく生産方式です。KICSは、売れるタイミングに合わせて工程順に1個ずつ製品をつくることで、後工程には良品しか流さない仕組みを確立しているのと同時に、受注から生産、納品までの一連の工程における停滞や無駄の排除を実現しています。また、さらなる納期短縮を目指し、標準作業の徹底と工程改善による製造ラインの強化に継続して取り組んでいます。

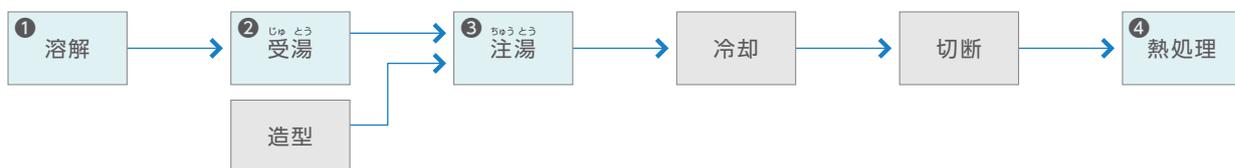
付加価値を生み出す製造現場に

キットは、お客様にご満足いただける品質、価格、納期、サービスの実現を目指し、新しい生産技術や製造プロセスへの積極的な投資を進めています。以前から実施している製造現場へのロボットの導入に加えて、ICT技術を活用した設備管理や画像処理、センサー技術を応用した検査も取り入れています。コア技術においては、新しい鋳造方法の採用や新材料の研究により、さらなる強化を図っています。これらの取り組みにより、製造現場を、より付加価値を生み出すプロセスへと進化させています。



伊那工場に導入している塗装ロボット

ステンレス鋼製バルブの生産工程



①溶解
原材料を高周波電気炉で溶かす。



②受湯
溶湯を取鍋に入れる。



③注湯
鋳型に溶湯を流し込む。上と下の型と中子のすき間に溶湯が流れ込む。



④熱処理(固溶熱処理)
素材を1,100℃まで加熱した後、急冷(水冷)。これにより、均一な金属組織が得られ、引っ張り、伸びなどの機械的性質(強度)を高めるとともに、耐食性を確保できる。

品質マネジメントシステムに裏付けられた キットブランド

キットは、品質マネジメントシステムの重要性にいち早く着目、1989年11月、日本企業で最初にISO9001の認証を取得しました。現在では、キットグループにおける国内外全ての生産拠点においてISO9001の認証を取得し、国内においては、本社、長坂工場、伊那工場及び茅野工場にて認証を継続しています。2019年2月には、グループ会社である株式会社キットエンジニアリングサービスが、キットグループでは初となる「バルブのメンテナンスサービス」の登録範囲において認証を取得しました。その他、2001年7月に日本のバルブメーカーとして最初に Pressure Equipment Directive (PED) の認証を取得、その後、台湾、タイ、中国、スペイン、ドイツの生産拠点でも認証を取得しています。

こうした国際的な品質規格に加え、国内では、高圧ガス保安法に基づく大臣認定試験者、JIS(日本工業規格)製品認証やJWWA(日本水道協会)が定める規格、また、国内及び中国の生産拠点において、API(アメリカ石油協会)のMonogram表示許可などを取得しています。

世界最適地生産を目指した グローバルな生産ネットワーク

キットグループは、現在、グローバルな生産ネットワークの構築を進めています。

国内工場は高付加価値製品の生産を行うとともに、グローバル生産拠点のマザー工場としての重要な役割を担っています。また海外では、タイ、台湾、中国、韓国、インド、スペイン、ドイツ、ブラジルに生産拠点を設け、現地のマーケットニーズに的確かつ迅速に対応するための生産体制を構築しています。

●KITZ Corporation of Taiwan

ロストワックス精密鋳物の新工場が完成

2019年7月、ステンレス鋼製バルブを製造するKITZ Corporation of Taiwanが、ステンレス鋼ロストワックス*精密鋳物の新工場を竣工しました。従来、他のグループ会社やサプライヤーから精密鋳物の供給を受けていましたが、自社内で生産することにより、リードタイムの短縮と在庫の削減が期待できます。



*ロストワックス：
ワックス(ろう)でできた原型を鋳砂やセラミックで覆い焼き固めることで鋳型を作成する鋳造方法。寸法精度が高く、表面がきれいに仕上がるなどの特長がある。



⑤酸洗
熱処理やショットブラストによる鋳肌表面の酸化スケールなどの汚れを取り除く。併せて、鋳肌表面に保護皮膜を生成させ、耐食性をさらに高める。



⑥機械加工
切削や穴開けなどの加工を行う。



⑦組立
バルブの各部品を組み立てる。



⑧圧力検査
流体を流して圧力を加え、要求品質を満たしているかを検査する。

広範で強固な販売ネットワーク

キッツグループは、国内においては創業当初より、全国をカバーする強力な販売網を確立してまいりました。現在では、お客様が求める品質、価格、納期、サービスの全てにお応えするために、グローバルな販売ネットワークの構築を進めています。

充実した流通体制

日本全国をカバーする強力な代理店網により、お客様の声に即応できる販売体制を構築しています。これらの代理店とキッツは専用回線やインターネットでつながれ、マーケットの需要が生産の現場へ直接フィードバックされるとともに、業務効率の大幅な改善と業務のスピードアップを実現しています。また、各代理店が持つ在庫の



基準量を商品ごとに定め、出荷された数量を日単位で補充することにより、在庫量を一定に保つ後補充方式を採用。基準在庫を設定した商品の在庫量の把握が不要となる他、即納ニーズへの対応も可能となります。

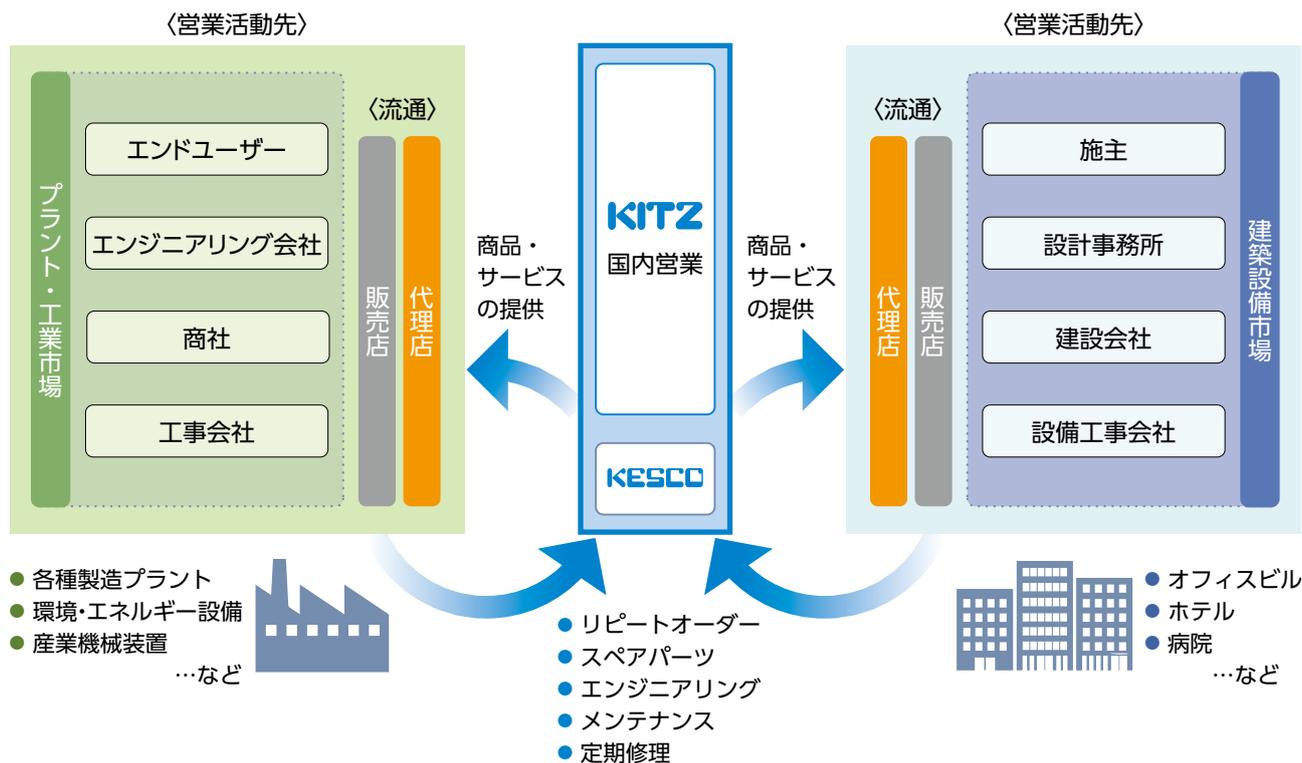
国内販売におけるキッツの強み

キッツは、私たちの身近な生活フィールドからあらゆる産業分野の生産プロセスに至るまで、多彩な商品を広範で強固なネットワークを通じて提供しています。

各市場のお客様が、採用するバルブメーカーを決定します。キッツは、お客様からのご要望に幅広くお応えするため、使用条件や困りごとを詳しくお聞かせいただき、最適なバルブを選定し、価格・納期について迅速にご回答しています。

納入後は、技術支援、部品供給及び現場点検修理など

国内におけるキッツの営業活動（イメージ図）



の、きめ細やかなサポートを通してお客様に寄り添い、さらなる信頼関係の構築に努めることにより、納入実績のあるお客様からのリピートオーダーや、既設のバルブに対するメンテナンスのご依頼をいただくなど、お客様とWin-Winの関係を築いています。

アフターサービスは、株式会社キッツエンジニアリングサービス(略称:KESCO)が担当しています。国内4カ所のサービス拠点と協力会社との連携により、全国各地にスムーズで幅広いメンテナンスサービスを提供しています。

世界の市場環境に応じた販売体制

キッツグループは、日本と3極(欧州、米州、アセアン)、2拠点(中国、インド)を世界市場の重点エリアと位置付け、

それぞれの市場環境に応じた販売・サービス体制を強化しています。

海外では、エリアごとに、販売、マーケティング、エンジニアリング、ストック、メンテナンス、サービスの機能を持つ地域統括会社を置いて地域に密着した事業を展開し、現地のお客様にご満足いただける商品・サービスを提供しています。

インド、U.A.E.に駐在員事務所を置く他、中国、香港、韓国、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、アメリカ、ドイツ、スペイン、ブラジルに販売拠点を設置し、グローバルな販売ネットワークを構築しています。また、個別のご要望に迅速に対応するために、バルブの改造や修理を行う「キッツオフィシャルモディフィケーションショップ」網の展開を図っています。

3極の地域統括会社

欧州

KITZ Europe GmbH

ドイツ・フランクフルト郊外のニデラウにKITZ Europe GmbHを置いて、欧州地域のみならず中近東及びCIS市場も見据えた生産・販売戦略を推進し、事業拡大を目指しています。

Chairman
齊藤 太誉

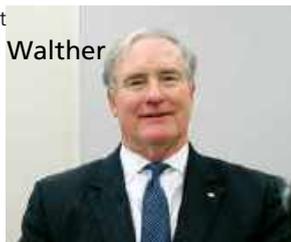


米州

KITZ Corporation of America

アメリカ・テキサス州にKITZ Corporation of Americaを置いて、北米はもちろん、中南米の国々に向けた販売活動を行っています。

President
James Walther



アセアン

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.

シンガポールにKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.を置いて、アセアン地域の中核拠点として営業活動を推進しています。

Chairman & Managing Director
野澤 大志



マレーシアUnimech Group Berhadの株式取得と業務提携

キッツは、2019年9月、マレーシアの大手バルブメーカー及び販売代理店であるUnimech Group Berhad(以下、Unimech)との間で株式譲渡契約及び事業提携契約を締結し、発行済株式総数の25.1%を取得しました。

Unimechは、アセアン・中国地域を中心に幅広い販売網、調達力を有しています。今回の提携により、キッツグループの技術力、Unimechの販売力及び両社のブランド力を融合させ、第4期中期経営計画の重点目標の一つに掲げている「アジア地域のミドルクラス(ボリューム)ゾーンへの本格参入」を力強く推進していくことが可能となります。



Unimechのゲートバルブ

信頼のブランド

キットグループは、多数の商品ラインナップを揃え、その品質は国内外のお客様から高い信頼を得ています。中心となるKITZブランドをはじめ、あらゆる市場、分野で使われる12のブランドを展開しています。



CEPHAS
 Cephas Pipelines Corp.

"Jso"
 KITZ Corporation of Europe, S.A.

RED-WHITE TOYO
 東洋バルブ株式会社

perrin
 Perrin GmbH

EMGA
 Metalúrgica Golden Art's Ltda.

YKV
 ワイケイブイ株式会社

三吉ハルブ株式会社

株式会社 キッツ
 KITZ MICRO FILTER CORPORATION

株式会社 清水合金製作所

株式会社 キッツ マイクロフィルター

MICRO
 Micro Pneumatics Pvt. Ltd.

KITZ SCT
 株式会社 キッツ エスシーテア

Focus

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド **KITZ** のシンボルです。

日本を代表する工業デザイナー 柳 宗理(やなぎ そうり)氏(1915~2011年)の協力により誕生したハンドルは、人間工学の観点からも握りやすさを追求。指がかりの形に、大輪の菊の花弁がもつ「ふくよかさ」をシンボライズさせているため、愛称を「菊ハンドル」としました。1980年9月から青銅製バルブのハンドルデザインに採用し、順次、他の製品にも展開してきました。



バルブのメンテナンスサービス

近年、国内の既設プラントにおいては、改修・ロングライフ化が推進されており、メンテナンスに対する意識が高まっています。キッツグループは、バルブの製造・販売だけでなく、修理や点検、整備など、製品のライフサイクルを視野に入れた事業展開を加速させています。

全国に4拠点を展開

メンテナンスを担当する株式会社キッツエンジニアリングサービス(略称:KESCO)は、本社(千葉県習志野市)の他、阪神、名古屋及び徳山の国内4ヵ所にサービス拠点を展開し、バルブを熟知したエンジニアが、幅広いニーズに応えています。

徳山は、日本を代表する石油化学コンビナート所在地であり、プラントのメンテナンス需要に対応しています。本社、阪神、名古屋のサービスセンターは、食品、地域冷暖房設備、環境関連設備など、幅広い施設のメンテナンスを手掛けています。名古屋については、2020年2月、愛知県東海市に新たに建設したサービスセンターに移転。広さが2.5倍となり、作業効率が上がった他、作業(分解整備・検査・改造)スペースとは別に、各種対応(禁油・洗浄、塗装及び部品)エリアも設置するなど、お客様からの様々なご要望に対応できるようになりました。

各種認証・資格を取得

KESCOは、2019年2月にISO9001を、「バルブのメンテナンスサービス」の登録範囲で取得しました。また、他社製バルブのメンテナンスにも適切に対応するため、海



名古屋サービスセンター

外を含むバルブメーカーから、バルブメンテナンスに関する認証・資格を取得しています。

人財育成に注力

KESCOは、メンテナンスを行う人財の育成に力を入れています。キッツグループの人財育成カリキュラムにより、バルブの基礎知識を身に付けた後のOJTによる教育では、ベテランと若手がチームを組み、実際のメンテナンス作業の中で、仕事を身に付ける体制を構築しています。

また、資格取得のための支援制度も充実しており、玉掛、フォークリフト、ガス溶接、施工管理等、メンテナンスに必要とされる様々な分野の資格取得を、社員教育の一環として推進しています。

KESCOが提供する6つのサービス



伸銅品事業

黄銅棒の製造・販売を担う

キットグループは、黄銅棒及び黄銅加工品（切削品及び鍛造品）の製造・販売を行う伸銅品事業を展開しています。黄銅棒は、各種機械、建築資材などに幅広く使用されています。

黄銅とは

黄銅とは、銅（Cu）と亜鉛（Zn）の合金であり、銅と亜鉛の割合を変化させたり、様々な金属元素を添加することにより、電気伝導性、熱伝導性、耐食性、塑性加工性及び切削加工性など多くの優れた特徴を持たせることができる金属です。

伸銅品事業について

株式会社キットメタルワークスは、黄銅製バルブの素材を開発・供給するとともに、水栓金具、ガス機器、家電製品及び自動車部品等の素材として幅広く使用される高品質な黄銅棒と加工品（切削品、鍛造品）の製造・販売を行っています。

グループの北東技研工業株式会社は、切削品及びロウ付け加工品の製造・販売を行っています。



環境規制に対応する新製品

近年、世界的に環境負荷物質に対する規制が強化されています。特に、欧州では鉛規制が厳格化される方向にあり、鉛レス黄銅棒の需要拡大が見込まれています。

キットメタルワークスは、従来から販売しているビスマス系鉛レス黄銅棒「キーパロイ」シリーズに加え、高いリサイクル性を有する「キーパロイII」シリーズの販売を開始。さらに2019年には、三菱伸銅株式会社（現三菱マテリアル株式会社）とシリコン系鉛レス黄銅棒「エコプラス®」シリーズのライセンス契約を締結しました。「エコプラス®」は、JIS規格、欧州EN規格及び米国ASTM規格に登録されているグローバル材料であり、高耐食、高強度な性質を有します。量産体制を整え、2020年度中の販売開始を目指しています。



エコプラス®

新工場が稼働開始

キットメタルワークスは、さらなる「ものづくり力」強化のため、新工場を建設し最新鋭の設備を導入。2019年10月、新工場において量産を開始しました。生産性及び品質の向上を図ることに加え、環境対応材料を安定的に供給し、より一層、お客様のニーズにお応えしてまいります。



キットメタルワークスの新工場

黄銅棒の生産工程



①原料配合・溶解
原材料を誘導炉で溶かす。



②連続鋳造
水冷式横型連続鋳造機または縦型半連続鋳造機で鋳塊を鋳造する。



③切断
鋳塊を大型の切断機で決められた長さに切断し、押し出し用のピレット(中間製品)にする。



④加熱・押し出し
ピレットを所定の温度まで加熱。押し出し機により、直線棒またはコイル状に押し出す。



⑤連続酸洗
押し出し工程で表面に付着した酸化物を、酸洗いにより除去する。



⑥冷間抽伸
直線棒・コイルを抽伸機のダイスに通し、正確な形状と寸法の棒材に仕上げる。



⑦矯正・切断
矯正機によって棒材の曲がりを除き、所定の長さに切断する。



⑧低温焼鈍
棒材の残留応力の除去や硬さの調整のため、所定の温度で低温焼鈍を行う。



⑨計量・梱包・出荷
完成した棒材を、所定の重量または本数で結束・梱包し配送する。

「ホテル紅や」もキッツグループです。

創業者 北澤利男の出身地である長野県諏訪市。周辺には、キッツの主力工場である長坂工場、伊那工場及び茅野工場の他、キッツメタルワークス、キッツマイクロフィルター等、グループの生産拠点・事業所が数多く所在しています。

ホテル紅やは、上諏訪温泉で最大級の規模を誇り、眺望抜群の温泉展望浴場や充実した岩盤浴など、多彩な温泉施設が自慢のリゾートホテルです。観光客だけでなく、地域の方々の憩いの場としても利用されています。

また、中央自動車道(下り)諏訪湖サービスエリア及び上信越自動車道(上り)東部湯の丸サービスエリアも運営しており、地元の特産品を取り入れた料理の提供や、土産物の販売を行っています。



サステナビリティ

担当役員メッセージ



キッツグループは、
流体に関わる事業を通じて、
地球と共に生きる社会をつくります。

村澤 俊之

取締役常務執行役員 管理本部長

サステナビリティ経営の重要性

キッツは1951年の創業以来、バルブの製造・販売を通じて、私たちの暮らしや産業を支えてきました。また、企業理念である「キッツ宣言」に謳われているゆたかな社会づくりを体現するため、企業の社会的責任(CSR)を果たすべく、地域の振興や環境保全活動に努めてきました。環境保全活動については、1998年に長坂工場ですべてISO14001の認証を取得して以来、グループを挙げて環境経営を着実に推進しています。また、以前から社会貢献活動にも力を入れており、事業所が所在する地域のプロスポーツチームの支援の他、国際貢献や地域振興などに寄与する活動に積極的に参加しています。

一方、世界に目を向けると、凄まじいスピードで様々な変化が起こっています。この変化の中で、社会が直面する複雑で困難な課題の解決に向けて企業が担う役割の重要性は、ますます高まっています。

そのような状況の中、社会が持続可能であるために、従来のCSR活動に加え、流体制御機器メーカーとしてさらなる持続可能性を意識した経営(サステナビリティ経営)と事業を通じた社会課題の解決を推進していくための専門部署として、サステナビリティ推進室を新設しました。

企業価値と社会価値を高めるために

持続可能な社会づくりのためには、企業は「継続的に成長を続け企業価値を上げること」、「社会的価値を創造すること」、この双方が重要です。この共通価値(CSV=Creating Shared Value)の実現が、社会からの信頼につながると考えます。

世の中から信頼されるためには、ESGの視点や国際連合で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」を共有することが重要です。また、機関投資家も企業のESGへの取り組みを重視しており、その要請にも応えていく必要があります。第4期中期経営計画において、ESGのさらなる強化を重点テーマの一つに掲げており、ESG視点から課題解決に取り組み、より信頼される企業になるよう努めてまいります。

ESGを含む非財務情報の開示については、先般、ウェブサイトにもサステナビリティに関するページを新設しました。ウェブサイトのみならず、コーポレートレポート(統合報告書)、環境報告ダイジェスト及び株主通信といった媒体を通して、また、あらゆるステークホルダーとの対話により、積極的に情報を開示してまいります。そして外部からの客観的な評価により、できていることと不足していることを把握・分析し、さらに取り組みを強化します。単なる情報開示に留まることなく、非財務分野のパフォーマンスの一層の向上を目指してまいります。

「つくる未来 のこす未来」

2020年3月、キッツグループは、サステナビリティ経営を進めていく上で重要な指針となる、サステナビリティコミットメントとサステナビリティスローガンを策定しました。コミットメントは、キッツグループが持続可能な企業であり

続け、社会価値の向上を目指す上での、あらゆるステークホルダーとの約束ごとです。スローガンは、コミットメントを実現するための、キッツグループ全社員の道しるべとなります。

コミットメント

流体に関わる事業を通じて、
地球と共に生きる社会をつくります

キッツは、1951年の創業以来、長年携わってきた素材開発を含めた「流体」に関わる事業活動を通じて、私たちの暮らしや産業に欠かすことのできないライフラインを支え、企業の社会的責任（CSR）を果たすべく、地域の振興・環境保全活動に努めてまいりました。

私たちは地球上のすべての人が安心して生活できる持続可能な社会を望んでいます。そのような社会の実現には、企業が継続的に成長しながら、事業活動を通じた社会課題解決や地球規模の環境保全に取り組むことが重要であると考えます。

キッツグループは、持続可能な社会の実現に向け、地球とそこに住む人々に対して真摯な姿勢で向き合い、企業価値と社会価値の双方の向上を目指します。流体に関わる事業を通じた「地球と人にやさしい社会」=キッツグループがつくる未来です。

スローガン

つくる未来 のこす未来

つくる未来

キッツグループは、「誠実」に行動し、そして「変革」を恐れずチャレンジし、地球と人にやさしい循環型社会の実現を目指して、新しい未来を創造します。

のこす未来

キッツグループは、限りある地球資源と人の暮らしを守り続け、私たちが次の世代にのこすことのできる社会の実現に努めます。

100年企業を目指して

キッツは2021年に創業70周年を迎えます。キッツグループが100年企業を目指し、10年後、30年後、50年後、そしてその先も成長・発展していくためには、イノベーションを生み出し続ける企業風土が必要です。2020年春、新たな試みとして全社横断型の長期ビジョン・ミッション検討タスクフォースチームを編成しました。メンバーとなった若手を中心とする社員が、キッツグループのあるべき姿、これから歩いていく未来を真剣に考え、議論を開始しました。ここで議論された内容は、今後、経営陣が策定する中長期ビジョンへの提言となるなど、キッツグループは、経営層か

ら一般社員まで、性別・年齢・国籍・職種・役職などの違いにとらわれることなく、開かれた環境で意見を述べ合ったり、社員一人ひとりが最大限に力を発揮して活躍したりすることができる環境づくりを行っています。多種多様な知識や価値観の組み合わせが、新たな発想を生み、イノベーションの原動力になると考えています。

これからもキッツグループは、今までの「当たり前」とはわれず積極的にチャレンジし続け、企業価値と社会価値の双方の向上を目指します。そして、流体に関わる事業を通じて、地球と共に生きる社会をつくってまいります。

持続可能な未来に向けて

キッツグループは、ESGの視点を経営に反映させることにより、中長期的かつ持続的な成長を実現するとともに、地球環境及び社会が抱える様々な課題の解決に取り組んでまいります。

ESGを軸にした取り組みとSDGs

2019年度を初年度とする第4期中期経営計画では、ESGのさらなる強化を重点テーマの一つに掲げています。2020年3月、キッツの重要な取り組み項目と関連性の強

いSDGsの目標を見える化しました。これまでの取り組みを一層強化するとともに、サステナビリティ経営をさらに加速させ、持続可能な未来に向けてSDGsの達成に寄与してまいります。

大項目	中項目	具体的な実施項目	SDGs
Environment 事業活動を通じて地球環境保全に貢献する	1. 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供	① 鉛レス材・カドミレス材等の環境に優しい材料の開発 ② 除菌・浄化処理装置の開発 ③ RoHS指令・REACH規制対応商品の提供 ④ クリーンエネルギー分野への対応商品の開発	    
	2. 産業廃棄物の削減と再利用・再利用の推進	① 地球温暖化ガス・CO ₂ 排出量の低減活動の推進 ② 環境負荷物質排出の抑制	 
	3. グループ・グローバルでの環境汚染防止と予防	① 有害物質を含有する化成品の特定と代替の推進 ② 海外拠点別環境法規制の見える化と対策	
Social 人財・安全・地域社会を大切にす	1. 多様な人財(ダイバーシティ&インクルージョン)の活躍推進	① 働きやすい人事制度の導入と定着 ② 同一労働同一賃金に向けての取り組み ③ 女性社員の活躍推進 ④ シニア人財の活躍推進 ⑤ グローバル人財の登用と育成 ⑥ ワーク・ライフ・バランスを支える制度の充実	  
	2. 安全・健康・人権を大切にす社風の醸成	① 安全で健康に働くことができる職場環境の整備 ② 国、宗教、民族等に対する偏見・差別・人権侵害・不正を行わないとするポリシーの徹底	 
	3. 適正な事業活動	① 公正な取引によるサプライチェーンマネジメントの推進 ② 品質と安全性確保による顧客満足度の追求	
	4. 社会貢献活動	① 社会貢献活動の推進	
Governance 公明正大な経営	1. 健全なコーポレート・ガバナンス体制の確立	① 指名委員会と報酬委員会の有効な運用 ② 女性役員の登用 ③ J-SOX法に加え会社法上の内部統制(内部監査)の強化	
	2. 経営における透明性の向上と経営監視体制の強化	① 三様監査会合(監査役会・会計監査人・内部監査室)に社外取締役を加えた四様監査・監督会合の実施による情報の共有化 ② 社外役員によるグループ会社の監査と監督 ③ 内部監査室の強化	
	3. 取締役会の実効性の強化	① 幅広い見識・経験を有する社外役員の起用によるガバナンスの強化と取締役会の活性化 ② 取締役会の実効性評価の実施と課題への対応	

コーポレート・ガバナンス

キッツは、持続的な成長と企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組み、ステークホルダーからの期待と信頼に応えてまいります。

コーポレート・ガバナンスの基本方針・体制の概要

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により企業価値の持続的な向上を目指し、ゆたかな社会づくりに貢献することを企業理念に掲げ、社会的に責任ある企業として、株主の皆様をはじめ、全てのステークホルダーに配慮した経営の実現に取り組んでいます。

また、迅速かつ効率が良く、健全で透明性の高い経営の実現とコンプライアンスの強化を図るため、様々な施策を講じ、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることとしています。

キッツは、取締役会及び業務執行を適切に監督・監視する機能を強化するため、社外取締役4名及び社外監査役3名を選任しています。また、社外監査役が過半数を占める監査役会を設置することにより監査体制の強化を図っています。さらに、過半数を社外取締役で構成する「指名委員会」及び「報酬委員会」を取締役会の任意の諮問機関として設置し、取締役候補者、監査役候補者及び執行役員の名指並

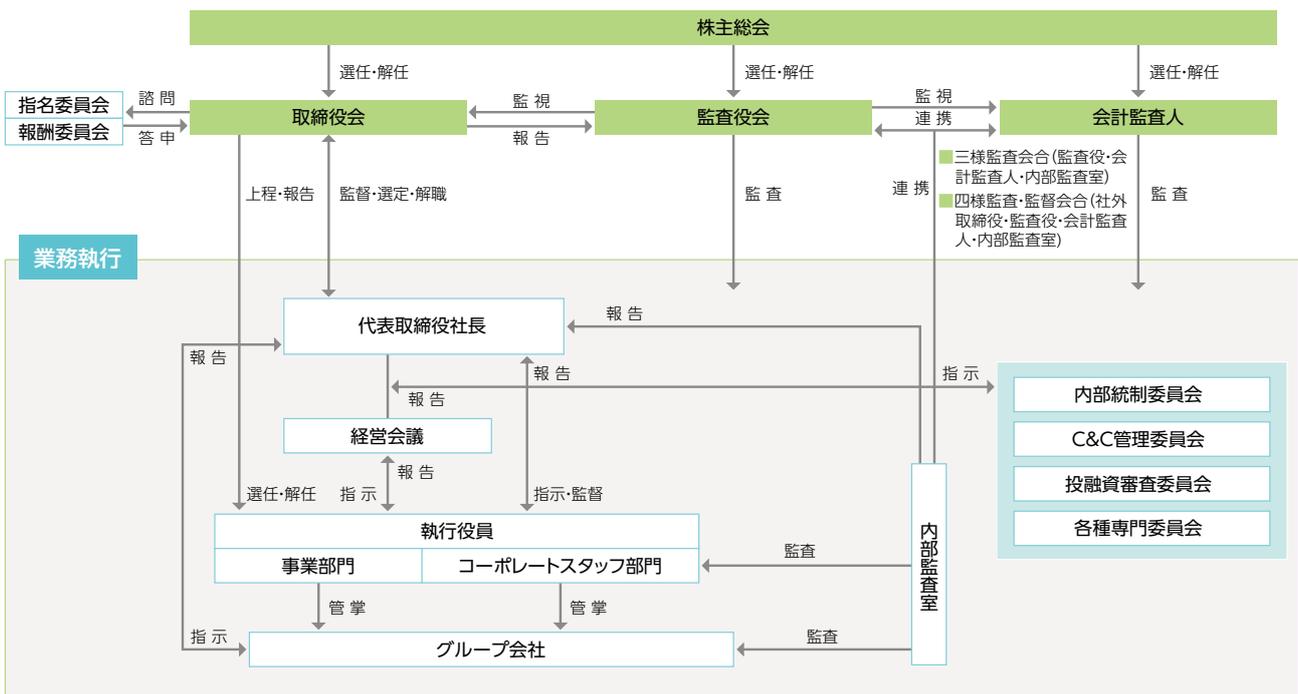
びに取締役及び執行役員の報酬の決定について、客観性・透明性の向上を図っており、監査役会設置形態による統治が十分有効に機能しているものと判断しています。

また、各組織の業務は職務権限規程及び稟議決裁規程に基づいて行っており、キッツ及びグループ会社の取締役会の意思決定は、取締役会規程及びグループ会社規程に基づいて行っています。加えて、内部統制、クライシス対応、リスク管理、コンプライアンス推進、安全保障貿易管理、投融資審査及び情報セキュリティ・個人情報保護などに関する各種専門委員会を設置し、グループ経営の適切な意思決定に係る重要事項について審議・評価を行っています。

取締役・取締役会

キッツの取締役会は、株主に対する経営の受託者としての責任を踏まえ、キッツグループの持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上を目指し、経営方針、中長期経営計画及び各年度の事業計画等を含む経営上の重要事項の審議、

コーポレート・ガバナンス体制の概要



決定及び業務執行の監督を行うとともに、キッツグループ全体の内部統制システムの構築の責務を担っています。

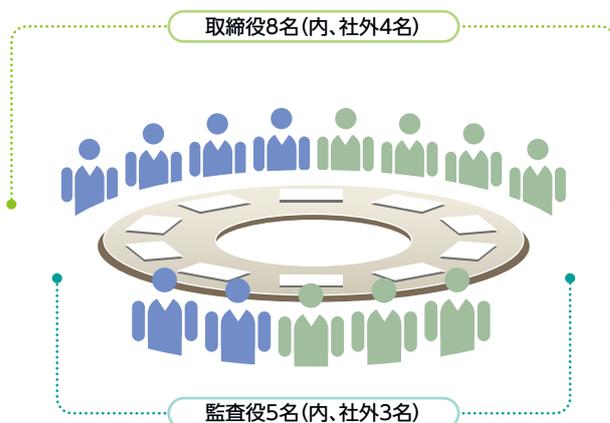
取締役会は、業務執行取締役4名と社外取締役4名の計8名で構成しており、原則として毎月1回定時取締役会を、四半期ごとに決算取締役会を、必要に応じて臨時取締役会をそれぞれ開催し、法令で定められた事項及び取締役会規程に定めた事項並びに経営上の重要な諸課題について闊達な議論を行う他、各業務執行取締役から定期的に業務執行の状況報告を受けることなどにより、取締役の職務執行を監督しています。

なお、取締役の任期は、意思決定の迅速化と業務執行責任の明確化を図るため1年としています。

また、社外取締役は、企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を有し、取締役会の経営判断や意思決定に加わる他、経営判断に対する適切な助言及び業務執行の監督の役割を果たしています。

社外役員

キッツは、企業経営についての豊富な経験と見識を有する社外役員（社外取締役及び社外監査役）を選任することにより、取締役会の監督・監視機能を強化しています。社外役員は、取締役会等において経営陣から独立した客観的な立場で、株主をはじめとするステークホルダーの意見を代



コーポレート・ガバナンスの強化に向けた取り組み

	1990年	2000年	2010年	2020年
監督と執行の分離	定款に定める取締役員数20名	99年 12名に改定	05年 9名に改定	
		99年 執行役員制度を導入		
社外取締役		01年 1名	11年 2名	17年 3名 20年 4名(内、女性1名)
社外監査役	1名	00年 2名		19年 3名(内、女性1名)
取締役会の運営等			06年 取締役任期を1年とする	16年 取締役会の実効性自己評価を実施
		99年 融資審査委員会を設置	02年 C&C管理委員会を設置	07年 内部統制委員会を設置
諮問委員会等				17年 報酬委員会を設置 17年 指名委員会を設置
			04年 役員退職慰労金制度を廃止	16年 業績連動型株式報酬制度を導入
報酬制度				16年 コーポレートレポート(統合報告書)発行
統合報告書				
企業理念	92年 キッツ宣言を制定	01年 新キッツ宣言を制定	06年 新キッツ宣言を改定	

弁し、取締役会に適切に反映させることが期待されており、経営の方針や経営改善等について、会社の持続的な成長を促し、中長期的な視点から企業価値の向上を図るべく、適切な助言を行っています。

また、社外取締役3名及び社外監査役3名は東京証券取引所が定める「社外役員の独立性判断基準」及び当社が定める「社外役員の独立性の判断に関する基準」を満たしており、東京証券取引所に独立役員として届出を行っています。

さらに、女性の社外役員の選任については、社会構造やお客様のニーズを敏感に捉え、スピード感を持った着実な経営を行うため、社外及び女性の視点を積極的に取り入れることとし、女性の社外取締役及び社外監査役をそれぞれ1名選任しています。

指名委員会・報酬委員会

キッツは、取締役及び監査役の人事並びに取締役及び執行役員の報酬について、取締役会の独立性・客観性及び説明責任を強化するため、過半数を社外取締役で構成する「指名委員会」及び「報酬委員会」を取締役会の任意の諮問機関として設置しています。

「指名委員会」は、当社が定める「役員の選解任に関する方針」に基づき、ジェンダーや国際性の面を含め、人格、能力、識見、経験、専門性、実績、公正性及び年齢など多角的な観点から、取締役候補、監査役候補及び執行役員の指名並びに次期役員候補の人財育成等について、「報酬委員会」は、取締役及び執行役員等の報酬方針やその内容に関する重要な事項についてそれぞれ審議を行い、その結果を踏まえ、取締役会に答申しています。

取締役会の実効性評価

キッツは、取締役会の実効性の強化を図るため、毎年、全ての取締役及び監査役を対象にアンケート方式による「取締役会の実効性に関する調査」を行っています。

そして、得られた回答及び今後の実効性の改善に関する意見を踏まえ、取締役会において現状の評価結果の検証、課題の共有及び今後の改善対応等の取り組みについて議論しています。

なお、2020年5月に実施した調査では、経営戦略の策定及び実行、取締役会の構成、役員の指名・報酬、監査、社外

取締役期待する役割、取締役会の審議の活性化、株主・その他ステークホルダーへの対応に関する項目等について行いました。その結果、取締役会の実効性は概ね確保できているとの評価が得られました。

執行役員制度・経営会議

キッツは、取締役会の意思決定事項を効果的かつ迅速に執行するため、執行役員制度を導入しています。また、全ての執行役員で構成する経営会議を毎月開催し、その審議を経て業務執行に関する重要事項の決定を行うとともに、重要な経営課題について闊達な議論を行っています。

監査役・監査役会

キッツの監査役会は、常勤監査役2名及び社外監査役3名の合計5名で構成しています。

また、財務・会計・法務に関する豊富な知見と経験を有する監査役を1名以上選任しています。

監査役は、取締役会等における業務執行に係る決定の局面において、公平かつ公正な経営の意思決定がなされるための有益な行動が特に期待されていることを自覚し、株主の利益ひいては会社の利益を斟酌し、必要に応じて、意見を述べるなど、期待される任務を果たしています。

また、取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況及び取締役相互の経営監督機能の実効性の監視に加え、意思決定プロセスと決定内容の適法性・妥当性について監視している他、必要な意見の陳述を行っています。

監査役監査については、監査役監査基準、監査計画及び役割分担に従い、重要な会議への出席や事業所・子会社往査など調査権を行使して取締役の職務の執行を監視し、善管注意義務等の法的義務の履行状況について検証するとともに、監査役会において必要な審議を行っています。

内部監査

内部監査については、内部監査室が当社及び子会社を対象とする業務監査及び内部統制監査を実施しており、内部統制の機能の有無について監査及び確認を行い、全社的な内部統制の状況及び業務プロセスの適正性をモニタリングしています。監査等の結果は、代表取締役社長、監査役及び関係部門に伝達され、是正に向けたフォローがなさ

れ、内部統制委員会において精査するとともに、必要に応じて取締役会に報告しています。また、子会社の重要なリスクに関する監査を行い、各社各部門に内包されるリスクを明らかにするとともに、リスクの回避及び軽減を図るため、業務の改善及び法令遵守体制の構築支援を行っています。

会計監査人

キッツは、EY新日本有限責任監査法人を会計監査人として選任しています。会計監査人は、各事業年度の計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びに付属明細書）について監査を行っています。

なお、会計監査人の監査業務執行計画については、会計監査人と経理部の協議に監査役室及び内部監査室が陪席し、その意見調整を経て決定しています。

会計監査人の候補の選任については、会計監査人の独立性、適格性及び専門性等並びに監査品質の適切性、妥当性、有効性、効果性、監査体制、監査計画及び監査報酬の妥当性等について評価し、監査役会の決議を経て、株主総会に付議することとしています。

監査・監督機能の連携

監査役会は、会計監査人及び内部監査室の三者で構成する「三様監査会合」を定期的を開催し、監査状況の報告を受け、情報及び意見交換を行い、緊密な連携を図っています。また、「三様監査会合」のうち、年数回は社外取締役を加えた「四様監査・監督会合」を開催し、独立した客観的な立場に基づく情報交換及び認識の共有を図り、監査役の監査機能と社外役員の監督機能の向上に努めています。加えて、定期的に代表取締役との間で意見交換会を開催する他、業務執行取締役及び執行役員と経営上の課題について情報や意見を交換する機会を設けています。

政策保有株式

キッツは、当社が定める「政策保有株式に関する方針」において、取引先との良好な協力関係を維持する目的である場合を除き、安定株主の形成等を目的とした政策保有株式は保有しないこととしています。また、毎年、同方針に基づき、保有する政策保有株式の見直しを行い、保有する意義が乏しいと判断した株式の適宜売却を進めています。

内部統制システム／コンプライアンス

内部統制システム

キッツは、グループの経営基盤を健全かつ強固なものにするため、会社法に基づく内部統制システム（取締役の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制その他当社を中心とする企業集団の業務の適正を確保するための体制）を構築するとともに、金融商品取引法に基づく内部統制システム（会社に係る財務計算に関する書類その他の情報の適正性を確保するための体制）を構築しています。

会社法では、リスク管理、法令等の遵守、業務の適正化及び適正な財務報告など大きく4つの目的が定義され、リスクマネジメント及びコンプライアンスの推進、事業活動に

関する全ての業務を適切に評価・対応する体制の構築及び財務報告（決算書）の虚偽表示の防止体制の整備・運用にグループ全体で取り組んでいます。また、金融商品取引法では、業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関する法令等の遵守及び資産の保全の4つの目的を遂行するプロセスが定義され、同法令に基づき、企業会計審議会が公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を行うとともに、監査役会、会計監査人及び内部監査室が緊密な連携を図り、全社的な内部統制の有効性に関する評価を行っています。

コンプライアンス経営の推進

キッツは、コンプライアンス経営を行うことは企業が持続的に発展するための基本かつ必須の条件であると認識しており、企業理念である「キッツ宣言」において、その「行動指針」の一つ目に「Do it True (誠実・真実)」を掲げています。

これを実現するため、2002年にキッツをはじめとするグループ会社それぞれに、代表取締役社長を委員長とするC&C(クライシス&コンプライアンス)管理委員会を設置し、経営リスクの未然防止、危機対応及びコンプライアンス経営の徹底を図っています。

また、通常の内部統制システムやコンプライアンス体制において把握できない内部情報を収集するため、内部通報制度を整備し、運用しており、社内及び顧問法律事務所に設置しているコンプライアンス・ヘルプライン(内部通報窓口)で受け付けた通報情報については、通報者の秘密を厳格に保護しつつ、迅速かつ適切に調査及び措置を行っています。

コンプライアンス教育・アンケート

キッツは、コンプライアンス経営の重要性、基本方針、企業倫理行動規範、内部通報制度及び教育並びに違反者に対する懲罰等をプログラム化したグループ共通の「コンプライアンスガイドブック」及び各種法務教育資材を作成し、キッツ及びグループ会社の役員・従業員に配布する他、毎年計画的に教育セミナーを開催し、コンプライアンスの浸透、知識の向上及び意識の高揚を図っています。

また、コンプライアンス経営の浸透度を確認し、潜在的なコンプライアンスリスクを可視化することを目的として、キッツ及びグループ会社の従業員に対し、コンプライアンスアンケートを不定期に実施し、把握したリスクに対して、優先順位を付けた上で業務プロセスの改善や教育などの施策を実施しています。

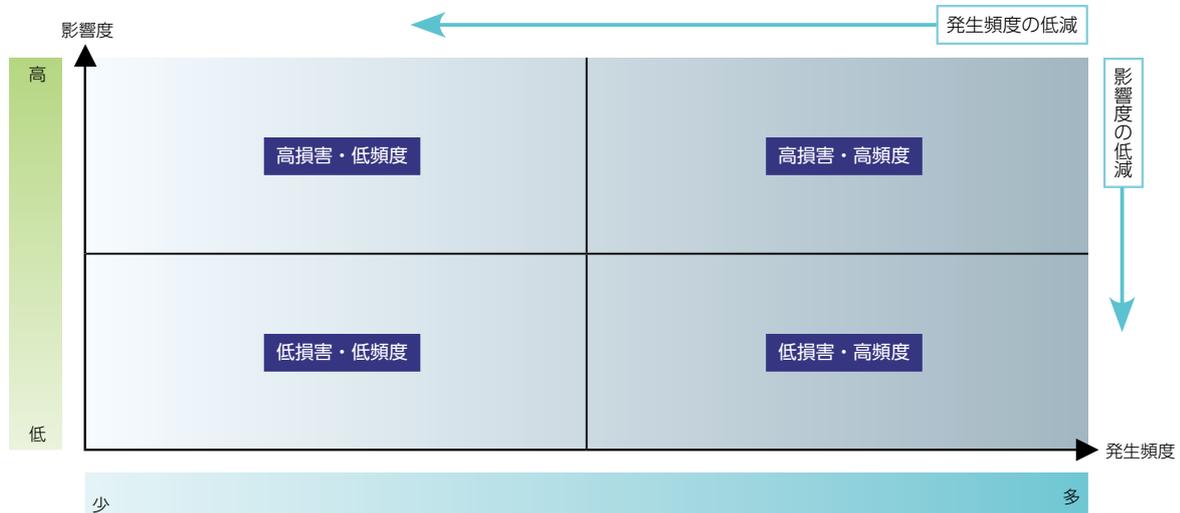


国内外のグループ会社取締役を対象としたコンプライアンスセミナー

リスクマネジメント

キッツは、企業経営に重大な影響を及ぼす可能性がある様々なリスクをコントロールするため、キッツ及びグループ会社において、リスクマネジメントに取り組んでいます。具体的な取り組みは、C&C管理委員会が策定するリスク管理の方針及び評価基準に基づいて、経営会議においてリスクの抽出、分析、評価及び対策の検討・実施を行い、検討経過及び結果については取締役会に報告しています。そのうち、重大リスク事項については、その特定及び対策実施の方針を取締役会において審議し、決定することとしています。

リスクの分析評価



経営体制

(2020年6月30日現在)

取締役



代表取締役社長 **堀田 康之**

1955年6月18日生
1978年 3月 当社入社
1997年 1月 営業本部中部支社長
2001年 4月 長坂工場長
2001年10月 株式会社キッツエスシーティ常務取締役
2004年 6月 同社代表取締役社長
2006年 4月 当社常務執行役員、バルブ事業部長
2007年 4月 専務執行役員、バルブ事業部長
2007年 6月 取締役、専務執行役員、バルブ事業部長
2008年 6月 代表取締役社長、社長執行役員、バルブ事業部長
2009年 4月 代表取締役社長、社長執行役員、現在に至る



取締役 **名取 敏照**

1957年1月20日生
1980年 3月 当社入社
1999年10月 生産本部茅野工場長
2004年 4月 株式会社キッツメタルワークス常務取締役
2009年 7月 同社代表取締役社長
2010年 4月 当社執行役員、生産本部長
2011年 6月 取締役、執行役員、生産本部長
2012年 4月 取締役、常務執行役員、生産本部長
2013年 4月 取締役、常務執行役員、バルブ事業統括本部長
2014年 4月 取締役、専務執行役員、バルブ事業統括本部長
2019年 4月 取締役、副社長執行役員、アジア汎用弁戦略室長
2020年 4月 取締役、副社長執行役員、経営企画本部長、現在に至る



取締役 **村澤 俊之**

1959年2月9日生
1981年 3月 当社入社
2001年 4月 経営企画部長
2009年 4月 執行役員、経営企画部長
2011年10月 執行役員、経営企画本部長
2016年 4月 執行役員、管理本部長
2016年 6月 取締役、執行役員、管理本部長
2019年 4月 取締役、常務執行役員、管理本部長、現在に至る



取締役 **河野 誠**

1966年3月10日生
1988年 4月 当社入社
2008年 8月 バルブ事業部海外営業本部プロジェクト営業部長
2011年12月 プロジェクト統括部長
2013年 4月 バルブ事業統括本部生産管理部長
2015年 4月 バルブ事業統括本部事業企画部長
2016年 4月 執行役員、経営企画本部長
2017年 4月 KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd. CEO & Managing Director及びKITZ Valve & Actuation Singapore Pte. Ltd. Managing Director
2019年 4月 当社常務執行役員、バルブ事業統括本部長
2019年 6月 取締役、常務執行役員、バルブ事業統括本部長、現在に至る



取締役(社外) **松本 和幸**

1945年9月21日生
1970年 4月 帝人製機株式会社(現ナプテスコ株式会社)入社
2001年 6月 同社取締役
2003年 9月 ナプテスコ株式会社執行役員
2004年 6月 同社取締役
2005年 6月 同社代表取締役社長
2011年 6月 同社取締役会長
2013年 6月 株式会社トプコン社外取締役、現在に至る
当社社外取締役、現在に至る



取締役(社外) **天羽 稔**

1951年12月9日生
1979年 4月 デュボンファーマーイースト日本支社(現デュボン株式会社)入社
2000年 3月 同社取締役
2002年 3月 同社常務取締役
2004年 3月 同社専務取締役兼エンジニアリングポリマー事業部アジア太平洋地域リージョナルディレクター
2005年 7月 同社取締役副社長
2006年 9月 同社代表取締役社長
2013年 1月 同社代表取締役会長兼デュボンアジアパシフィックリミテッド社長
2014年 9月 デュボン株式会社名誉会長
2015年 6月 当社社外取締役、現在に至る
2016年 3月 大塚化学株式会社監査役
2019年 3月 当社社外取締役、現在に至る



取締役(社外) **藤原 裕**

1951年4月20日生
1974年 4月 三井海洋開発株式会社入社
1987年11月 安田信託銀行株式会社(現みずほ信託銀行株式会社)入社
1994年 8月 同社ニューヨーク副支店長
1996年 6月 同社シカゴ支店長
1998年 8月 オムロン株式会社入社
2005年 6月 同社執行役員、財務IR室長
2007年 3月 同社執行役員、グループ戦略室長
2008年 6月 同社執行役員常務、グループ戦略室長
2008年12月 同社執行役員常務、IR企業情報室長
2013年 6月 ナプテスコ株式会社社外取締役、現在に至る
2017年 6月 当社社外取締役、現在に至る



取締役(社外) **菊間 千乃**

1972年3月5日生
1995年 4月 株式会社フジテレビジョン入社
2011年12月 弁護士登録
2012年 1月 弁護士法人松尾総合法律事務所入所、現在に至る
2014年12月 株式会社ノビアホールディングス社外取締役
2018年 6月 株式会社コーセイ社外取締役、現在に至る
2020年 5月 タキヒヨー株式会社社外取締役、現在に至る
2020年 6月 アルコニック株式会社社外取締役、現在に至る
当社社外取締役、現在に至る

監査役



常勤監査役 **近藤 雅彦**

1952年9月8日生
 1977年 8月 当社入社
 2000年 7月 総務人事部長
 2004年 4月 執行役員、総務人事部長
 2010年 4月 執行役員、管理本部副本部長
 2012年 6月 取締役、執行役員、管理本部長
 2014年 4月 取締役、常務執行役員、管理本部長
 2016年 6月 常勤監査役、現在に至る



常勤監査役 **木村 太郎**

1959年8月4日生
 1991年12月 当社入社
 2001年 6月 経理部長
 2010年 4月 管理本部経理統括部長
 2011年 4月 執行役員、管理本部副本部長
 2017年 6月 常勤監査役、現在に至る



監査役(社外) **高井 龍彦**

1952年2月3日生
 1974年 7月 三井金属鉱業株式会社入社
 2004年 6月 同社執行役員財務部長、三井金属エンジニアリング株式会社社外監査役
 2007年 6月 三井金属鉱業株式会社最高財務責任者(CFO)兼上席執行役員財務部長
 2008年 6月 同社常勤監査役
 2011年 6月 株式会社ナカポーター社社外監査役
 2015年 6月 当社社外監査役、現在に至る



監査役(社外) **作野 周平**

1954年2月17日生
 1977年 4月 株式会社横河電機製作所(現横河電機株式会社)入社
 1999年10月 同社関連会社統括室長
 2005年 4月 同社執行役員、経営管理本部経理財務センター長
 2008年 6月 同社常務執行役員、経営監査本部長
 2016年 6月 横河ソリューションサービス株式会社監査役
 2017年 6月 当社社外監査役、現在に至る
 2019年10月 ジャパニクス株式会社社外監査役、現在に至る



監査役(社外) **小林 彩子**

1975年10月14日生
 2000年10月 弁護士登録
 2009年 1月 片岡総合法律事務所パートナー
 2013年 9月 慶應義塾大学法科大学院非常勤講師
 2018年 4月 弁護士法人片岡総合法律事務所パートナー、現在に至る
 2019年 6月 当社社外監査役、現在に至る

取締役及び監査役の選任理由

	氏名	在任年数	2019年度の出席状況		選任理由	
			取締役会	監査役会		
取締役	堀田 康之	13年	16/16回	—	健全で透明性の高い経営を実現すべく、コーポレート・ガバナンスの強化と当社グループのグローバル化を強力に推進するとともに、企業価値の向上に取り組んでまいりました。豊富な見識と経験に基づく優れた経営判断能力を活かし、経営の監督と執行、取締役会における重要な意思決定機能及び経営監督機能の強化への貢献が期待できると判断しました。	
	名取 敏照	9年	16/16回	—	生産部門担当の取締役執行役員や国内グループ会社の代表取締役及び海外グループ会社の取締役を歴任し、よいモノづくりを通して、当社グループの持続的な企業価値の向上に貢献してきました。豊富な経験と実績を取締役会における経営戦略等の立案・審議や執行の監督等に活かすことができると判断しました。	
	村澤 俊之	4年	15/16回	—	経営企画部門、管理部門の取締役執行役員及びグループ会社の取締役を歴任し、当社グループの事業戦略の立案・執行をはじめ、人材育成やダイバーシティを推し進め、持続的な企業価値の向上に貢献してきました。豊富な経験と実績を取締役会における経営戦略等の立案・審議や執行の監督等に活かすことができると判断しました。	
	河野 誠	1年	10/10回*	—	バルブ事業の営業部門及び生産部門の業務に携わり、また、経営企画部門担当の執行役員や海外グループ会社の経営者としての経験も有しており、バルブ事業を強力に牽引していくことが期待されます。豊富な経験と実績を取締役会における経営戦略等の立案・審議や執行の監督等に活かすことができると判断しました。	
	松本 和幸	7年	16/16回	—	ナプテスコ株式会社の経営者として長年にわたり活躍され、企業経営者としての豊富な経験に加え、技術戦略に関する幅広い見識を有しておられることから、その知見を活かした監督と助言を求めため、引き続き社外取締役をお願いすることとしました。	
	天羽 稔	5年	16/16回	—	グローバルに事業を展開するデュポン株式会社の経営者として長年にわたり活躍され、企業経営にかかる豊富な経験に基づく高い見識を有しておられることから、その知見を活かした監督と助言を求めため、引き続き社外取締役をお願いすることとしました。	
	藤原 裕	3年	16/16回	—	金融機関の海外支店責任者を歴任した後、グローバルに事業を展開するオムロン株式会社において財務・IR・グループ戦略を担当する執行役員として活躍され、グローバルな観点からの経営管理に高い見識を有しておられることから、その知見を活かした監督と助言を求めため、引き続き社外取締役をお願いすることとしました。	
菊間 千乃	新任	—	—	マスメディアの業務を経験された後、各種訴訟等の紛争解決、企業法務その他幅広い分野において弁護士として活躍されておられることから、その知見を活かした監督と助言を求めため、新たに社外取締役をお願いすることとしました。		
監査役	社内	近藤 雅彦	4年	16/16回	15/15回	グループ会社を統括する管理部門担当の取締役として当社の経営に携わり、経営基盤の強化やグループリスクマネジメント体制の構築及び強化を推し進めてまいりました。これらの事業経営、労務・会計・財務に関する知見及び経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。
		木村 太郎	3年	16/16回	15/15回	長年にわたり、当社経理・財務部門を主管するとともに、グループ会社を統括する管理部門担当の執行役員として、内部統制システムの整備と内部監査機能の強化に加え、リスクマネジメント体制の構築を推し進めてまいりました。これらの内部統制、リスク管理等及び会計・財務に関する知見及び経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。
	社外	高井 龍彦	5年	16/16回	15/15回	三井金属鉱業株式会社において、長年、同社の経理、経営企画等の業務を担当された後、最高財務責任者(CFO)兼上席執行役員等を歴任され、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しておられ、また、当社における常勤監査役としての豊富な経験を当社の監査に反映していただけると判断しました。
		作野 周平	3年	16/16回	15/15回	横河電機株式会社グループを統括する経営管理部門における幅広い経験と会計・財務に関する相当程度の知見を有しておられるとともに、内部統制・リスク管理・内部監査体制の構築等の経験を通じて、コーポレート・ガバナンスに関する見識も備えておられることから、その豊富な経験を当社の監査に反映していただけると判断しました。
		小林 彩子	1年	10/10回*	9/10回*	ファイナンス、企業法務、コンプライアンス、M&A、争訟・紛争解決及び危機管理その他の幅広い分野において、弁護士として活躍されており、その豊富な経験・能力及び知見を当社の監査に反映していただけると判断しました。

※ 2019年6月25日の就任以降2020年3月末日までの状況を記載しています。

執行役員

社長執行役員	堀田 康之 ほった やすゆき
副社長執行役員	名取 敏照 なとり としあき
常務執行役員	村澤 俊之 むらさわ としゆき
常務執行役員	河野 誠 こうの まこと



執行役員 **平林 一彦**
ひらばやし かずひこ

1959年8月6日生

1982年 3月 当社入社
2004年 4月 生産本部生産企画部長
2012年 4月 生産本部副本部長
2013年 4月 執行役員、生産本部長、現在に至る



執行役員 **小出 幸成**
こいで ゆきなり

1959年1月15日生

1982年 3月 当社入社
1999年 8月 三吉バルブ株式会社常務取締役
2004年 12月 国内営業本部中部支社長
2008年 4月 国内営業本部営業企画部長
2013年 4月 バルブ事業統括本部事業企画部長
2015年 4月 執行役員、IT統括センター長、現在に至る



執行役員 **小山 順之**
こやま よりゆき

1959年3月9日生

1984年 3月 当社入社
2007年 4月 生産本部生産技術部長
2008年 10月 生産本部SC製造部長
2013年 4月 生産本部生産技術センター長
2015年 4月 執行役員、CS統括センター長、現在に至る



執行役員 **葛城 健志**
かつらぎ けんじ

1956年10月31日生

1999年 6月 Panasonic Australia Pty. Ltd. (Finance Director)
2006年 5月 パナソニック株式会社海外部門制度グループグループマネージャー
2008年 1月 Panasonic Consumer Electronic Company, a division of Panasonic North America Corp. (Vice President)
2009年 10月 パナソニック株式会社監査部監査人
2011年 4月 同社海外部門海外経理センター所長
2012年 1月 Panasonic Europe Ltd. (Director, CFO)
2016年 8月 当社入社
2017年 4月 執行役員、管理本部副本部長、現在に至る



執行役員 **田草川 勝**
たぐさがわ まさる

1962年10月4日生

1991年 3月 当社入社
2004年 4月 技術本部開発第三部長
2007年 4月 技術本部研究部長
2008年 4月 技術本部第二設計部長
2010年 4月 技術本部商品開発部長
2015年 4月 生産本部生産技術センター長
2017年 4月 執行役員、プロダクトマネジメントセンター長、現在に至る



執行役員 **平島 孝人**
ひらしま たかひと

1959年9月10日生

1985年 3月 当社入社
2002年 7月 生産本部諏訪工場長
2004年 4月 株式会社キッツマイクロフィルター取締役
2006年 4月 同社代表取締役社長
2011年 4月 当社執行役員、技術本部長
2012年 6月 取締役、執行役員、技術本部長
2017年 4月 執行役員、技術本部長
2018年 2月 技術本部長
2019年 4月 執行役員、技術本部長、現在に至る



執行役員 **沖村 一徳**
おきむら かずのり

1959年9月5日生

1983年 4月 藤沢薬品工業株式会社(現アステラス製薬株式会社)入社
2009年 4月 同社法務部長
2012年 4月 同社法務・コンプライアンス部長
2013年 6月 同社執行役員、法務・コンプライアンス部長
2016年 4月 同社執行役員、法務部長
2018年 6月 当社入社
2019年 4月 執行役員、法務部長、現在に至る



執行役員 **加藤 建二**
かとう けんじ

1962年1月21日生

1991年 3月 当社入社
2006年 4月 国内営業本部九州支店長
2008年 4月 国内営業本部東京支社長
2015年 4月 株式会社ホテル紅や代表取締役社長
2020年 4月 執行役員、国内営業本部長、現在に至る

社外取締役メッセージ



松本 和幸

社外取締役

迅速な判断と行動で、長期的なビジョンの実現を期待します。

2030年に向けたビジョンの下、2020年度がスタートしましたが、思いがけず新型コロナウイルスの感染拡大が、経営に大きな影響をもたらしています。当社は、災害等による事業中断に関するリスクに対してBCP(事業継続計画)を整備し運用してきましたが、その実践力とこれまで以上の持続性、そして新しいことにチャレンジする実力が問われています。

企業は、無駄を省き企業体質を鍛え、将来に向けての人財の発掘・採用と鍛錬、次の成長につながるためのコア技術・コア製品の開発と事業化を実践していかなければなりません。大事なことは、「何のための事業か」、「誰のための事業か」、「自社の成長・強化につながるのか」を常に意識して、顧客とのコミュニケーションを通して相互信頼を維持・昇華させていくことだと思います。併せて、現状と目標にギャップが生じないようにフォローしながら目標達成に努めることが、企業の持続性と長期にわたる社会的責任を果たすために重要だと思っています。

そして、行動指針「Do it True」、「Do it Now」、「Do it New」に基づく迅速な判断と行動で、長期的なビジョンを実現していくことを期待します。



天羽 稔

社外取締役

積極的な意見交換により、経営の透明性の確保に貢献してまいります。

社外取締役の重要な役割は、異なる見方・考え方の提供、厳しい意志決定の後押し、そして重要ポジションの後継者選定への貢献だと思っています。これらを効果的に機能させるためには、中長期戦略に積極的に関与し、持続ある成長の方向性及び課題設定のために、意見交換の場を持つことが最も重要だと考えています。

当社は、現在、グローバル経営基盤の整備を進め、ワールドクラスのテクノロジーとエンジニアリングを顧客に提供するとともに、エネルギーシフトや循環型社会に対応し、環境負荷低減に貢献しながら、成長市場において強固な地位を築こうとしています。また、グローバルでサプライチェーンの見える化を図り、省力化投資と労働生産性向上を実現することにより、社員がより良い生活を送ることができ、かつ、より安全・健康に働くことができる企業を目指しています。

コーポレート・ガバナンスを高めるためには、人選の基本ルール(多様性、専門性と全体のバランス)の尊重、情報セキュリティの確保、社外取締役の複数名選任が重要ですが、さらなる改善の必要性を感じるがあれば、積極的に意見交換しながら、経営の透明性の確保に貢献してまいりたいと思います。



藤原 裕

社外取締役

忌憚のない意見や助言を行うことにより、長期的な企業価値の向上に寄与してまいります。

2015年に制定されたコーポレートガバナンス・コードの主たる目的は、監督と執行が独立した企業統治体制構築の推進です。つまり、株主から企業経営の監督を委任されているのが取締役会、その取締役会から業務の執行を任されているのが社長以下の執行役員という、明確な監督と執行の役割分担が求められているのです。

日本企業の多くは、執行から独立した社外取締役の構成比率が低く、なかなか監督と執行の分離が実現できていないのに対し、当社は取締役8名のうち4名が社外取締役です。この構成比率は、約3,700社の上場企業の中でも先進的な一社ではないかと思っています。さらに当社は、この取締役会の実効性を高めるため、監査役会設置会社でありながら、社外取締役が過半を占める指名委員会と報酬委員会を設置し、役員人事とその報酬の透明性を確保しています。

私たち社外取締役の責務は、ガバナンス体制の実効性を高めるために、株主あるいはその他のステークホルダーの視点を常に持ち続け、忌憚のない意見や助言を行うことにより、長期的な企業価値の向上に寄与することだと考えています。

環境活動／安全衛生活動

環境活動

キッツグループは、環境理念及び環境行動方針に基づき、地球規模の環境保全への貢献に向けた目標(環境に配慮した商品・サービスの開発と提供、産業廃棄物の削減と再利用・再利用の推進、グループ・グローバルでの環境汚染防止と予防)を設定し、さらに具体的な活動を定めています。持

続可能な社会の実現のため、グループを挙げて取り組んでいます。

土壌汚染調査については、法定の調査に留まらず、生産拠点を中心に自主的な土壌汚染調査を行っています。長坂工場、伊那工場及び茅野工場の他、株式会社キッツエスシーティー、株式会社清水合金製作所、株式会社キッツマイ

キッツグループ環境理念

キッツグループは、環境に配慮した商品・サービスの提供と事業活動の推進により、社会から信頼される企業を目指します。

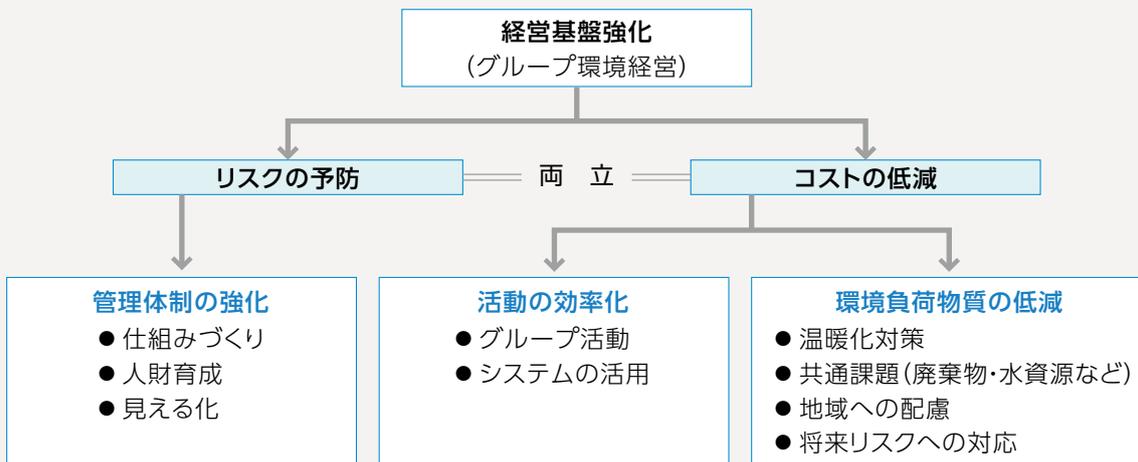
キッツグループ環境行動方針

環境を経営の重要な視点として意識し、一人ひとりの社員が次の施策に積極的に取り組みます。

1. 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供
2. 資源の有効活用
3. 廃棄物の削減と再利用・再利用の推進
4. 環境汚染の防止・予防

環境経営の考え方と取り組み

上記の理念・行動方針に基づき、リスクの予防とコストの低減の両立をベースに活動する。これらの両立は、積極的な環境保全活動により土壌汚染などの環境リスクを未然に防ぎ、将来発生しうる費用を抑えること、また、事業活動で排出される廃棄物の徹底的な削減がコストの削減につながり、広く社会に還元できるという考え方に基づく。



クロフィルター及び株式会社キッツメタルワークスにおいても、土壌汚染調査を完了しています。これら生産拠点では、調査結果をもとに、状況に応じた対策を進めています。

環境に配慮した商品・サービスの開発と提供

独自の環境開発方針及び環境負荷低減ガイドラインを制定し、中長期的な視点に基づいて、環境負荷の少ない製品開発に取り組んでいます。

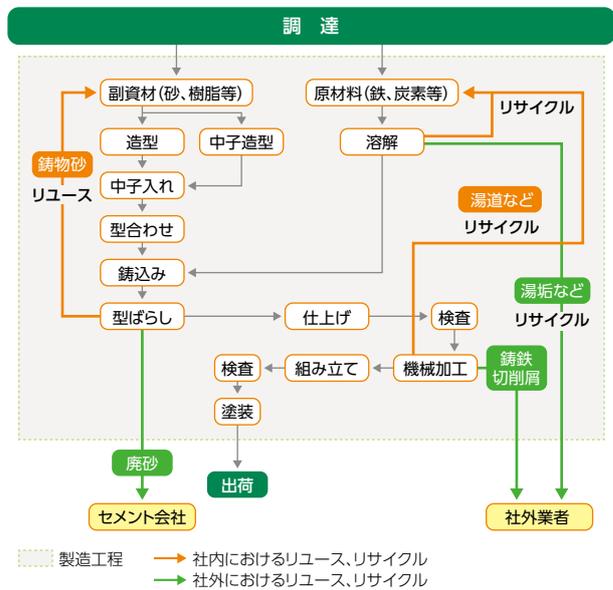


資源の有効活用

バルブは、自然資源である金属素材を主要材料としています。キッツでは、一度使用された金属製品のスクラップを原材料の一部として使用する他、長年培ったノウハウを活かし、製造工程で発生する端材や切粉(切削屑)を原材料として還元するよう努めています。また、鑄造工程で使われる鑄物砂については、砂処理工程において、塊を砕いたり、ふるいで分別したりするなどの処理を経て再利用しています。繰り返し使用された鑄物砂は、基準粒径より小さくなると廃棄物となりますが、廃棄された鑄物砂はセメントの補助材として利用されます。キッツでは、地球環境との共存を目

指し、限りある資源の有効活用を推進しています。

鑄鉄製バルブの省資源化の流れ

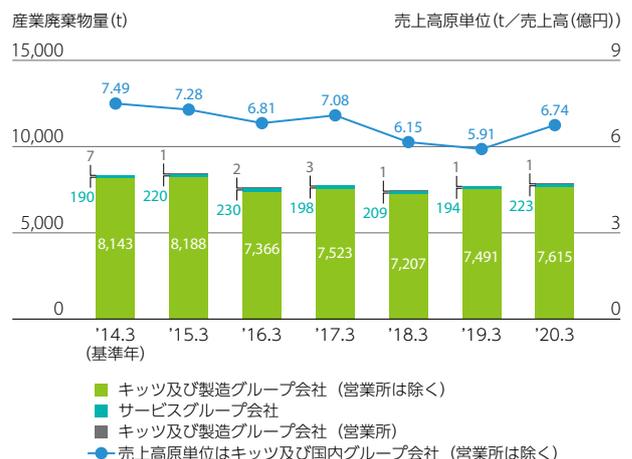


廃棄物の削減と再利用・再利用の推進

リデュース(廃棄物を出さない・持ち込まない)、リユース(再生が可能な廃棄物は再生ラインに戻す)、リサイクル(分別し再資源化する)、再利用できないものについては「適正に処分する」ことに取り組んでいます。廃棄物の分別を徹底し、有価物化を推進することにより、廃棄物発生量の抑制につなげています。

キッツグループの生産活動から出る廃棄物の多くを占める産業廃棄物については、生産部門において、発生量の調査・分析をもとに、削減及び再利用化に取り組んでいます。

産業廃棄物量の推移



また、キッツグループの環境・安全についての情報を管理する「廃棄物管理システム」により、産業廃棄物の発生から最終処分までの工程をタイムリーに把握し、グループ内で共有しています。システムにおいて廃棄物の処分ルートがあらかじめ決められており、委託契約したルート以外では処分することができない仕組みを構築しています。

環境汚染の防止・予防

バルブの原料である金属材料や鋳物砂には、PRTR対象物質*である、鉛、マンガン、クロム、ニッケル、酸化クロムが多く含まれています。大気に排出される主な物質は、塗料、シンナーや貯蔵ガソリンから発生するキシレン、トルエン、外部に移動する主な物質は、鋳物砂に含まれる酸化クロムが挙げられます。

キッツでは、PRTR対象物質の他、化成品に含まれている危険・有害物質による環境汚染を回避するために、「化学物質管理システム」を2000年に構築。有害物質を含有する化成品の特定や代替化を進め、バルブ製品の安全性向上と環境負荷低減を図っています。

※PRTR対象物質:「人の健康や生態系に悪影響を及ぼすおそれがある」、「自然の状況で化学変化を起こし容易に有害な化学物質を生成する」、「オゾン層破壊物質」のいずれかの有害性の条件に当てはまり、かつ環境中に広く継続的に存在すると認められる物質。

環境マネジメントシステムの強化

キッツグループは、環境経営の推進を経営基盤強化の主要項目として位置づけています。環境中期計画では、国内外全ての生産拠点でISO14001認証を取得することを目標にしており、グローバルな環境マネジメントの確立に取り組んでいます。

ISO14001 統合認証取得事業所

キッツ長坂工場	KITZ Corporation of Taiwan
キッツ伊那工場	KITZ (Thailand) Ltd. Bangplee工場
キッツ茅野工場	KITZ (Thailand) Ltd. Amatanakorn工場
キッツメタルワークス	KITZ Corporation of Kunshan
キッツマイクロフィルター (本社工場、第二工場)	KITZ Corporation of Jiangsu Kunshan KITZ Corporation of Europe, S.A.
キッツエスシーティー	Cephas Pipelines Corp.
清水合金製作所	Filcore Co., Ltd.
東洋バルブ 甲信営業所	Metalúrgica Golden Art's Ltda.

グループ会社の取り組み

●LPGからNG(天然ガス)への燃料転換(キッツメタルワークス)

新工場建設を機に、CO₂排出量の削減を図るため、設備稼働に使用するガス燃料をサテライト方式によるLPG(LPガス)から導管供給によるNG(天然ガス)に転換しました。新工場では、2019年4月からNGにより稼働を開始。順次、既存工場の設備についても切り替えを進め、同年10月に完了しました。これにより、CO₂の削減目標が達成できる見込みとなりました。また、導管供給とすることにより、供給停止や供給不足のリスクも回避することができます。

石油燃料についても、2021年度にNGに転換するなど、さらなる環境負荷低減に努めてまいります。



NGを利用した新工場の予熱炉

●環境対応製品をラインナップ(キッツメタルワークス)

環境規制に対応するため、カドミレス黄銅、鉛レス黄銅などのRoHS指令や各国飲料水規制に適合した製品の開発や拡充に注力しています。鉛レス黄銅製品については、ビスマス系、すず系の「キーパロイ」の他、新たに「エコプラス®」をラインナップに加えることにより、お客様の製品選定の幅が広がりました。

●ブラジルの環境イベントでエコロジー賞を受賞 (Metalúrgica Golden Art's Ltda.)



ブラジルでバルブの製造・販売を行っているMetalúrgica Golden Art's Ltda.は、環境政策専門の出版社が主催する環境イベントにおいて、エコ

ロジー賞を受賞しました。これは、ブラジル南部3州の地

方自治体及び企業を対象に優れたエコロジー活動を公募し表彰するものであり、Metalúrgica Golden Art's Ltda.は、「鋳物の酸洗工程において発生する排水を再利用する仕組みを導入した活動」で応募しました。

従来、酸洗処理後に発生する酸水は、排水として専門の廃棄業者に処理を依頼していましたが、2017年に再利用処理設備を導入したことにより、使用済み酸水を自社内でリサイクルできるようになり、同時に、廃棄処理費用削減によるコストダウンにも成功しました(2018年度効果金額:180,466レアル(約540万円)。

この取り組みは、コスト面での効果だけでなく、排水を放出しないことにより地域の環境改善にも貢献していることから、優れたエコロジー活動として評価されました。

安全衛生活動

キッツグループ安全衛生基本理念及び安全衛生基本方針に基づき、ゼロ災害を推進しています。

キッツグループを横断する組織である全社環境委員会に、安全衛生活動の推進機能を加え、2020年度より全社環境安全衛生委員会として新たにスタートしました。これにより、環境活動とともに、安全衛生活動にも一層注力する体制が整うこととなりました。具体的には、職場でのケガや疾病の防止、快適な職場環境の推進、生活習慣病予防のための健康管理、交通事故の防止などに向けた取り組みを強化しています。

キッツグループ安全衛生基本理念

キッツは人間尊重を基本とし、安全衛生が全ての活動に最優先することを認識し、積極的に安全衛生活動に取り組み、災害ゼロを目指します。

キッツグループ安全衛生基本方針

1. いきいきとした快適な職場づくりに努め、心とからだの健康づくりを推進する。
2. 労働安全衛生法令及び関係法令を順守するとともに、社内規程・基準に基づき全ての従業員の安全衛生を確保する。
3. 安全衛生活動に必要な知識・技能を、全ての従業員に教育・訓練して安全衛生管理レベルの向上を図る。
4. 従業員が安心して働けるよう、設備の本質安全化を図る。
5. 職場における危険性・有害性を取り除き、リスクの低減を図る。

先取り(予防)と安全意識の向上を図り、グループを挙げて安全衛生活動を推進します

「組織的な活動の充実とライン化の徹底」と「職場自主活動の活性化(小集団活動によるボトムアップ)」との両方向から展開を図り、一人ひとりのマインドを変え、安全意識を向上させ、職場風土を変革していきます。

従業員の安全と健康の施策として、「安全の先取り(予防)」と「安全意識の向上」を図るため、以下の重点取組事項を設定しています。

- 管理体制の整備(安全衛生関係法令の順守)
- 機械・設備、人への安全対策(類似災害防止)
- 職場風土づくり(ゼロ災害運動の推進)



長坂工場の安全体験室

バルブ業界のリーディングカンパニーとして

キッツは、バルブ業界のリーディングカンパニーとして長年培ってきた高度な技術と豊富な実績を活かし、お客様の様々なニーズにお応えするため、バルブに関する各種サービスを提供しています。

お客様を対象としたバルブ技術研修

キッツ研修センターは、バルブ技術に関する日本で唯一の常設研修所です。1981年の設立以来、社内研修で活用する他、大勢の外部の方々にもご利用いただいています。近年、バルブを用いる産業は、環境・安全基準の厳格化に対応した新技術や、高機能化・省人化に対応した自動化技術の発展が著しく、これまでにないスピードで変化しています。こうした先進技術に対応できる研修プログラムとして、「バルブの基礎講座」及び「自動弁の基礎講座」を開設しています。

バルブを取り扱う商社をはじめ、工事店、ユーザー、装置メーカー、プラント関連会社、学生など、受講される方々は多岐にわたります。バルブの分解・組立、配管等の実習や、豊富な実務経験を持つ技術者による講義を通じて、受講者のバルブ技術の修得をサポートしています。

バルブマイスター制度

キッツでは、自動弁及びバルブの金属材料に関して、一定の技術知識レベルに達した営業担当者をバルブマイスターとして認定する「バルブマイスター制度」を2014年度より導入しています。約18カ月、実践に基づいた専門的な教育と研修を受講し、認定試験に合格した39名(2020年4月現在)のバルブマイスターが、お客様からのご相談に対して、具体的な解決策をご提案しています。

営業担当者一人ひとりがバルブ技術のスキルを向上させることにより、お客様にさらなる価値をご提供し、業界全体の知識や技能の向上に寄与してまいります。

お客様満足度調査

キッツでは、より良い商品・サービスを提供するため、1997年より年1回、1,000社以上のお客様を対象とした満足度調査を実施しています。お客様からのご回答を収集・分析した結果をもとに、お客様によりご満足いただけるよう一層の改善に取り組んでいます。



キッツ研修センター



実習室



バルブマイスターとして認定された営業担当者の名刺には、認定マークが表示されます



キッツへの満足度について調査票にご回答いただいています

人財を支える取り組み

キッツは、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう、様々な取り組みを進めています。

目指す人財像

キッツの行動指針の一つ目に「Do it True(誠実・真実)」があります。誠実であること、真面目であること、そして、社会のルールや倫理に反しないこと。これは、キッツグループが最も大切にしている価値観であり、キッツの良き社風でもあります。

これに続く行動指針が「Do it Now(スピード・タイムリー)」、「Do it New(創造力・チャレンジ)」。スピード感ある事業展開により、目まぐるしく変化する市場の要求に応えていくためには、従来の殻を破る発想や行動力が求められます。秘められた創造力を自ら発揮し、新しいことに果敢にチャレンジするプロフェッショナル集団を目指しています。



人財育成についての考え方

キッツは、「個人能力の発揮」と「組織能力の発揮」を両輪に、人財の育成に取り組んでいます。階層別教育を柱に、職掌・職種別専門教育、特別選抜教育などの人財育成プログラムを充実させています。また、「チャレンジ目標制度」を運用し、「育成」を「評価」と「処遇」に連動させることにより、高いモチベーションを保つことができる企業風土を醸成しています。

●若手社員の基礎力向上

新卒採用者は、社会人としてのマナーや仕事の基本に関する導入研修を経て、その後、工場での実習を含む新

入社員研修で、バルブに関する基礎知識、キッツ社員としての行動や考え方の基本を学びます。技術職として採用された社員については、さらに1年かけて、設計、機械加工、鋳造などの基礎を学び、モノづくりの基本を十分に身に付けてから正式配属となります。

配属後、入社3年目終了時までには、新入社員1名に対し、任命された先輩社員が実務を指導する「アドバイザー制度」により、課題解決できるスキルを計画的に習得させる仕組みを取り入れています。

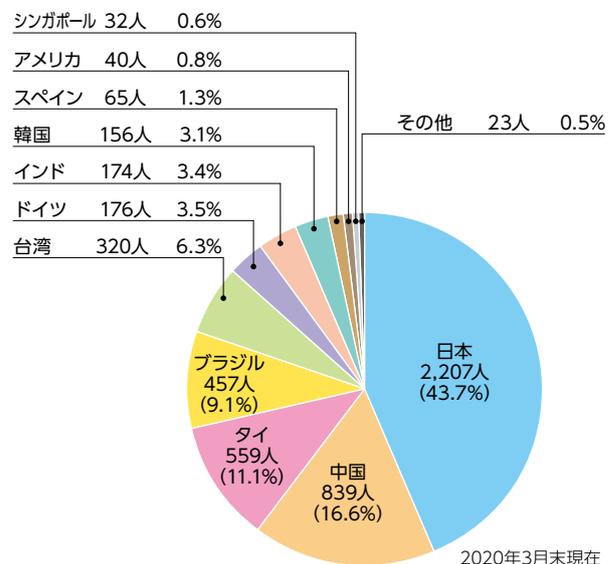
●選抜社員への語学教育

選抜した若手社員に対する語学教育にも力を入れています。海外での技術指導や打ち合わせ、学会での発表などの場で、スムーズなコミュニケーションが図れるよう、継続的に語学力向上に向けた取り組みを行っています。

●さらなるグローバル化を推進

1984年にアメリカに販売会社を設立して以降、生産拠点、販売拠点を海外に順次設立するとともに、スペイン、ド

国別人員構成



イ、インド、ブラジル及び韓国のバルブメーカーをM&Aによってグループに加えるなど、グローバルに事業を展開しています。現在、キッツグループの拠点は18カ国、日本以外の国で勤務する社員（出向者を含む）は、全体の56.3%を占めるまでになりました（2020年3月末現在）。

多様な国籍とバックグラウンドを持つ社員で構成するキッツグループが、より強固な企業集団になるために、「キッツグローバルHR*ポリシー」を制定しました。さらに、グループ共通の人事理念及び各種人事施策の取り組み方針を策定し、方針に沿った施策やリーダーの育成を進めています。

*HR:Human Resources(人材)

ダイバーシティ&インクルージョン*の取り組み

キッツは、社員を会社の財産(人材)と考え、性別、年齢、国籍にとらわれず、社員一人ひとりが最大限に力を発揮することができる環境づくりに取り組んでいます。

*ダイバーシティ&インクルージョン：個々の多様性を受け入れ、認め合い、活かすこと

●人事制度の改革

「強い風土・組織づくり」と「真のグローバル企業」の実現のため、他社に負けない業務専門性を持つプロフェッショナル集団となることを目指して、新たな人事制度に移行しました。

業務経験を通じ、高度な専門的スキル・知識を身に付けてそれを発揮する「エキスパート職」と、新しい付加価値を創造して、グローバルに活躍する経営層や、業界をリードする専門職を目指す「グローバル職」を、社員が自分自身のキャリアプランにより選択します。

個人のライフステージの変化に応じてコースを変更できるなど、誰もが挑戦する機会を持つことができ、働きがいを感じながら成長するための制度となっています。

●企業風土・意識の変革

創業からの伝統を守りながら、多様な人材が認められるよう、「今までのやり方が当たり前」から、「常に新しい方法を」という考え方に、意識の変革を促すための取り組みを行っています。

その一つとして、外部の有識者による、社員向けの講演会を実施しています。ダイバーシティ推進やキャリア開発

など、様々なテーマの講演は、社員の意識変革や企業風土改革の一助となっています。

ワーク・ライフ・バランスを支える制度の拡充

社員一人ひとりが高いモチベーションと充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たして企業人としてのキャリアを積むとともに、子育てや介護など、個人のライフステージの変化に応じて、多様で柔軟な働き方を選択することにより、その力を十分に発揮できるよう、キッツでは、ワーク・ライフ・バランスの充実に取り組んでいます。

その一つとして、育児に関する制度を拡充し、社員の育児と仕事の両立を後押しする環境を整えています。

●育児短時間勤務の適用時期延長

育児のために所定労働時間を短縮して働く育児短時間勤務。従来は、子どもが3歳未満までの適用でしたが、小学校就学前まで期間を延長しました。

●育児休業期間の延長

育児休業は、最大で子どもが1歳に到達後の3月末日または1歳6ヵ月に達する日の前日までの期間の取得が可能でしたが、保育所への入所ができないなどの理由がある場合には、2歳に達する日まで延長できるようになりました。

●中途退職者 リエントリー制度の導入

出産・育児、介護及び配偶者転勤のいずれかの理由で退職した社員が、事前に登録しておくことで復職が可能になる制度です。

その他、有給休暇の時間単位での取得、積立有給休暇を育児・介護休業に充当できる仕組みなど、働きやすい環境づくりを進めています。

風通しの良い職場づくり

トップ自らが、オープン・ドア・ポリシーを表明しており、社員に対して様々な場面で、風通しの良い職場環境の大切さを発信しています。他の役員も、日常的に社員と意見を交わすなど、コミュニケーションを大事にしています。また、役員と社員及びその家族が交流できるスポーツイベントの開催や、業務を離れた社員同士の懇親会への補助金制度など、職場の連帯感を高めるための取り組みも行っていきます。

多様な人財がキッツグループを支える

それぞれの現場で価値創造に取り組む姿を紹介します。

キッツにはグローバルで活躍できるチャンスがあります。

Roderick Andal Perez

株式会社キッツ カスタマー技術部 エンジニアリンググループ



キッツの社員は皆が一生懸命に働き、お互いを尊重し合っています。優しい同僚と良い環境のおかげで、毎日、気持ち良く働くことができます。キッツで働くということは、グローバルで活躍できるチャンスがあるということでもあります。

自分の経験を伝えることで、他の社員の成長に役立ちたいと思います。

Maria Luisa Ribas Steegmann

KITZ Corporation of Europe, S.A.
Managing Director & President



キッツグループは私を信頼し、グループの1社の経営を任せてられています。この10年で、私はプロフェッショナルとして成長し、専門以外の分野にも視野を広げることができました。この経験を他の社員にも伝えていくことで、彼らの成長に役立ちたいと考えています。

キッツグループが成長し続けていくための一翼を担っていきたいと思っています。

岡部 由紀子

株式会社キッツ サステナビリティ推進室長

持続可能な社会を実現するため、SDGs/ESGの課題解決に向けて、私たちはどのような貢献ができるかを検討しています。キッツグループの未来を考えることに、とてもやりがいを感じています。



キッツグループの同志とともに、新たな挑戦に向き合える喜びを感じています。

高木 隆

KITZ Valve & Actuation (Thailand) Co., Ltd.
Managing Director

「キッツ宣言」という共通の理念を持った同志とともに、新たな挑戦に向き合える喜びを感じています。私たちの活動によりグローバル市場でさらに強い企業に進化できるよう、そして社会への貢献につながるよう、チャレンジを続けてまいります。



キッツグループ発展のための技術の開発にやりがいを感じています。

吉良 直樹

株式会社キッツ 生産技術センター 技術研究グループ



バルブの自動生産設備の開発・導入を担当しています。入社以来、様々な技術を学び、イメージを形にできるようになりました。キッツグループが、今後さらに発展するために必要な技術を、自ら開発できることにやりがいを感じています。

営業事務の立場からキッツとお客様をつないでいきたいと思っています。

菊本 華織

株式会社キッツ 大阪第二営業所



営業事務という目線を活かし、社内基幹システムの立ち上げや、客先への発注システムの導入など、様々な業務に携わることができています。今後も、幅広くキッツとお客様をつなぐ仕事をしたいと思っています。

夢にも思わなかった海外赴任で様々な経験を積み、そのたびに自分の成長を実感します。

中込 智也

KITZ Corporation of Taiwan
Production Control Department Section Chief



入社した時には、海外で働くことになるとは夢にも思っていませんでした。実際に台湾で仕事をしてみると、様々な経験を積む機会があり、そのたびに自分の成長を実感します。これからも、広い視野を持つことを心掛けていきたいと思っています。

二つの異なる文化の橋渡し役にやりがいを感じています。

美田 静佳

KITZ Corporation of America
Chief Accounting Officer



米国の販売会社で経理の責任者を任されています。私は英語と日本語の両方を理解できるので、キットとの橋渡し役をする場面も多くあります。二つの異なる文化の間で、お互いを正しく理解することはとても重要であり、これは私の仕事の中で最も困難なことですが、やりがいを感じています。

これからも人と人をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。

下山 牧子

株式会社キットエスシーティー 管理部 総務経理課

育児休業を取得し、職場復帰して仕事を続けています。理解ある上司、仲間に恵まれ、子育てと仕事を両立しながら、楽しく働くことができます。これからも「感謝の気持ち」、「向上心」、「笑顔」を忘れず、人と人をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。



バルブに対する好奇心は尽きることがありません。

石井 友晴

株式会社キット プロダクトマネジメントセンター PCA事業推進部長

重点市場分野攻略のための戦略立案と新製品の市場投入に携わっています。提携企業、調達先からユーザーまで、キットに関わる多くの方々に幸せを感じてもらえるように、日々努力しています。

バルブは様々な産業で使われ、また、多くの技術が集積しており、好奇心が尽きることがありません。



上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、今でも忘れられません。

石原 祐樹

株式会社キット 海外事業推進部 事業推進グループ



私は入社して1年半足らずで、台湾エリアのお客様を1人で担当することになりました。その時の、上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、今でも忘れられません。若手のうちから色々な仕事にチャレンジさせてくれるのは、キットの良き社風だと思います。

やる気次第で自分の可能性を広げていくことができます。

白木 祥子

株式会社キット プロジェクト・自動弁設計部 プロジェクト設計グループ



キットには「女性だから」という否定的な考えはありません。やる気次第で、性別・年齢にとらわれることなく活躍できます。自分の可能性をもっと広げ、自分の力を社会に還元し貢献していきたいと思っています。

ステークホルダーとの対話

キッツは、株主、投資家をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会などのステークホルダーに対し、適時・適切かつ公平な情報開示を行うとともに、様々な活動を通して直接の対話機会を設けています。建設的な対話によって得られた意見や要望を経営陣にフィードバックし、経営効率の改善や透明性の向上に反映させています。



株主との対話

定時株主総会招集通知については、法定期限よりも早めて発送するとともに、発送に先立ってその内容をウェブサイトに掲載するなど、早期の情報開示に努めています。また、英語版をウェブサイトに掲載している他、株主様の利便性向上のため、インターネット等により議決権行使ができる体制を整えています。

個人投資家との対話

より多くの方にキッツのファン(株主)になっていただくことを目的に、個人投資家向けの説明会を年に複数回開催しています。また、ウェブサイトや株主通信によるタイムリーな情報発信の他、株主優待の充実にも努めています。



機関投資家との対話

機関投資家、アナリスト向けの決算説明会を四半期ごとに年4回開催し、社長及び担当役員から業績や中長期戦略について説明しています。2020年3月期の決算説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン(ライブ配信)で開催しました。



お客様との対話

キッツグループの商品をより広く紹介するため、国内外の展示会に積極的に出展し、ブースを訪れたお客様からの質問にお答えしています。



ビジネスパートナーとの対話

国内総合代理店社長会を年に1回開催しています。相互理解を促進し、代理店との連携をさらに深めています。

社員との対話

社長をはじめとする経営陣が、積極的に製造現場を訪れ、工場の社員とのコミュニケーションにより相互理解を深めています。また、国内事業所において社内決算説明会を実施。業績や中長期戦略について分かりやすく解説しています。

毎月発行する社内報「Monthly KITZ News Letter」には、事業所のニュースやトピックスに加え、社長メッセージや経営陣のコメントを載せて、イントラネットで配信しています。



地域との対話

伊那工場が所在する長野県伊那市で開催され、日本全国から強豪校が参加する春の高校伊那駅伝に毎年協賛しています。長野県内からの参加校の男子ランナーのゼッケンには、特別協賛スポンサーである当社の「KITZ」ロゴが表示されています。

社会貢献活動

キッツは、地域振興(地域貢献)、環境保全、社会・国際貢献及び文化振興を活動分野として様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

TABLE FOR TWOから「ゴールドサポーター」として感謝状

2020年5月、キッツが参加している開発途上国の飢餓と先進国の生活習慣病の解消に同時に取り組む活動「TABLE FOR TWOプログラム(以下、TFT)」の主催団体より、「ゴールドサポーター」として感謝状をいただきました。本社、長坂工場、伊那工場及び茅野工場の社員食堂でTFTの対象となるヘルシーメニューを提供し、その価格に含まれる1食につき20円の寄付金が、開発途上国の給食事業の支援に役立てられています。



コンタクトレンズ空ケース回収活動

使い捨てコンタクトレンズ使用後の空ケースを集め、コンタクトレンズ専門店アイシティのecoプロジェクト「使い捨てコンタクトレンズ空ケースのリサイクル活動」に参加しています。空ケースはリサイクル製品に再生され、その収益は公益財団法人日本アイバンク協会に寄付されます。2018年2月から2019年8月までの回収総数は、1万4,191個となりました。



「令和元年台風第15号千葉県災害」及び「令和元年台風第19号災害」に対する義援金

2019年9月から10月にかけて千葉県の他、全国各地で甚大な被害をもたらした台風第15号及び第19号により被災された方々を支援するため、社員に対し義援金を募集し、合計125万2,348円の善意が集まりました。この義援金に、会社からの154万2,652円を合わせ、キッツグループとして279万5,000円の募金を行いました。募金は、日本赤十字社を通して被災地の復興支援に役立てられます。

北澤美術館の活動を支援

諏訪湖畔に位置する北澤美術館の活動を支援しています。創業者 北澤利男が、地域文化の振興と発展に寄与することを目的として1983年に財団法人北澤美術館として開館。2013年には公益財団法人となりました。

19世紀末フランスのアール・ヌーヴォー期の世界第一級のガラス工芸品と現代日本画を中心に優れた作品を常時展示しており、国内外から高く評価されています。



カンボジアの子どもたちにスニーカーを寄付

韓国でバルブの販売を行っているKITZ Corporation of Koreaの社員は、国連難民機関が主催する、カンボジアの子どもたちに「希望のメッセージ」を描いたスニーカーを贈る活動に参加しました。カンボジアでは内戦等により危険な状態の道が多いにもかかわらず、大勢の子どもたちが裸足で過ごしています。子どもたちが安全に歩くことができるよう、願いを込めてスニーカーにメッセージやイラストを描きました。



地域社会との関わり - 事業所地域のスポーツ振興 -

山梨県に長坂工場が、また、長野県には伊那工場と茅野工場の他、キッツグループの多くの事業所が所在しています。キッツは、これらの地域の子どもたちの育成に力を入れている地元のプロスポーツチームを支援しています。

サッカーJ2リーグのヴァンフォーレ甲府(山梨県甲府市)、松本山雅FC(長野県松本市)及びバレーボールV1リーグのVC長野トライデンツ(長野県上伊那郡)への継続的な支援を通して、地域の振興と子どもたちの健全な育成、スポーツ文化の発展に貢献する活動を行っています。



ヴァンフォーレ甲府

育成組織であるアカデミー(U-18以下)のユニフォームスポンサーとしてサポートしています。



松本山雅FC

少女を対象としたサッカーイベントに協賛する「ヤマガールズパートナー」として支援している他、ホームスタジアムであるサンプロ アルウィンのバックスタンド側 車椅子席に、社名が入ったスタジアムバナー(横断幕)を掲出しています。



VC長野トライデンツ

2018-19シーズンからユニフォームの背中(裾)にロゴを掲出しています。また、アウェイの試合会場に横断幕を掲げています。



中学生バレーボール大会「キッツカップ」を開催

VC長野トライデンツ主催の、中学生を対象にしたバレーボール大会は、2018年度からキッツが冠スポンサーとなり「キッツカップ」として開催しています。2019年9月に行われた大会では、VC長野トライデンツが拠点としている長野県南信地区と山梨県から、男子は25チーム、女子は32チームが参加して、2日間にわたり白熱した試合を繰り広げました。



主要財務データ

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期
会計年度				
売上高合計	96,592	106,059	108,446	111,275
国内	76,403	82,120	82,974	81,509
海外	20,188	23,938	25,472	29,765
バルブ事業	70,611	76,098	78,976	84,472
伸銅品事業	16,218	20,230	20,065	17,948
その他	9,762	9,729	9,404	8,855
営業利益	6,976	6,341	4,638	6,558
経常利益	6,248	5,929	4,388	6,521
親会社株主に帰属する当期純利益	3,079	3,063	2,480	4,039
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,285	5,818	2,217	7,885
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,525	△ 2,907	△ 2,508	△ 4,519
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,291	375	△ 6,638	△ 3,213

会計年度末

流動資産	47,421	52,036	47,247	49,956
固定資産	50,112	48,101	47,734	50,016
資産合計	97,533	100,138	94,981	99,972
流動負債	18,070	26,521	20,182	21,149
固定負債	25,616	20,184	20,309	18,603
負債合計	43,686	46,705	40,491	39,752
純資産合計	53,847	53,433	54,489	60,219
有利子負債	27,555	30,165	24,290	22,319
期末株価(円)	545	400	360	472

1株当たり情報

EPS(1株当たり当期純利益)	27.23	27.36	22.71	36.98
BPS(1株当たり純資産)	468.31	480.88	490.65	542.41
1株当たり配当金	7.00	7.00	7.50	9.50

財務比率(%)

営業利益率	7.2	6.0	4.3	5.9
ROE(自己資本当期純利益率)	6.0	5.8	4.7	7.2
ROA(総資産経常利益率)	6.3	6.0	4.5	6.7
自己資本比率	54.3	52.5	56.4	59.3
連結配当性向	25.7	25.6	33.0	25.7
連結総還元性向	25.7	74.1	33.0	25.7

※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を2019年3月期の期首から適用しており、本冊子の2018年3月期においても当該会計基準を遡って適用した後の数値となっています。

2014年3月期 2015年3月期 2016年3月期 2017年3月期 2018年3月期 2019年3月期 **2020年3月期**

(単位：百万円)

117,355	117,036	117,278	114,101	124,566	136,637	127,090
84,970	81,983	80,127	80,207	89,756	95,209	88,147
32,384	35,052	37,151	33,893	34,809	41,428	38,942
87,888	90,152	93,579	91,766	98,162	109,969	103,114
20,953	21,021	20,557	19,333	23,535	23,643	21,061
8,514	5,863	3,141	3,002	2,867	3,025	2,914
6,470	6,886	7,245	8,929	10,117	11,713	6,950
6,501	7,581	7,300	8,799	9,733	11,883	7,241
3,564	6,881	4,915	5,400	6,518	5,625	4,937
4,667	8,923	9,592	12,979	6,941	10,069	13,329
△ 3,546	△ 1,010	△ 9,763	△ 2,141	△ 7,066	△ 9,264	△ 8,040
66	△ 3,706	796	△ 6,838	5,267	△ 9,702	△ 167

(単位：百万円)

55,866	63,884	63,501	67,972	77,400	71,226	73,351
51,717	51,905	55,920	51,175	56,145	60,430	61,712
107,583	115,790	119,422	119,148	133,545	131,657	135,063
20,703	25,740	19,040	19,608	24,078	22,227	25,036
20,101	14,556	24,284	24,647	32,075	32,600	33,147
40,805	40,296	43,325	44,255	56,154	54,827	58,184
66,777	75,493	76,096	74,892	77,391	76,829	76,879
23,728	21,426	25,008	24,787	34,302	33,672	39,147
505	594	487	742	914	811	653

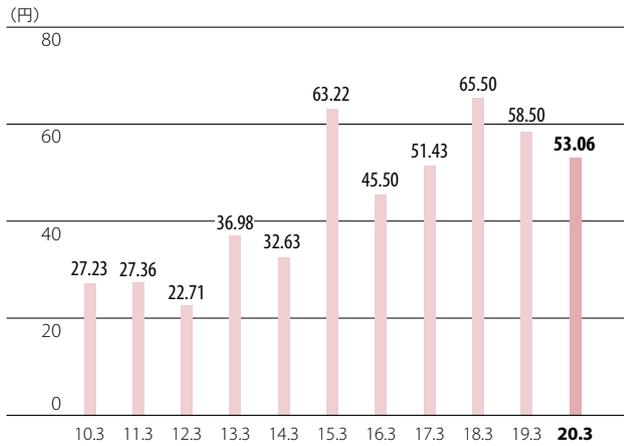
(単位：円)

32.63	63.22	45.50	51.43	65.50	58.50	53.06
601.56	686.47	700.17	727.78	782.98	793.74	819.49
10.00	13.00	13.00	13.00	17.00	20.00	20.00

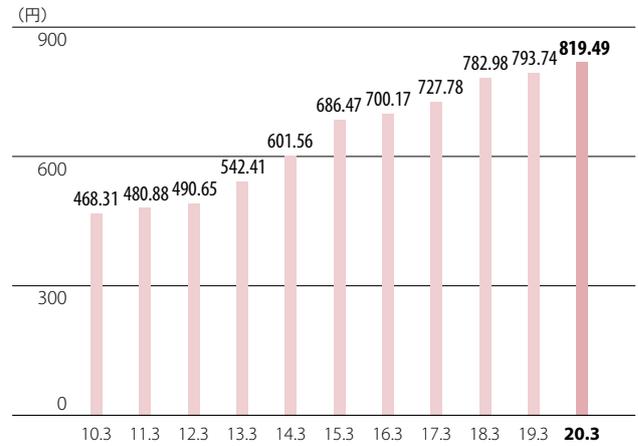
5.5	5.9	6.2	7.8	8.1	8.6	5.5
5.7	9.8	6.6	7.3	8.7	7.4	6.5
6.3	6.8	6.2	7.4	7.7	9.0	5.4
61.1	64.2	62.9	61.9	57.1	57.4	56.0
30.6	20.6	28.6	25.3	26.0	34.2	37.7
30.6	27.6	38.8	92.5	80.0	70.1	80.2

主要財務データ

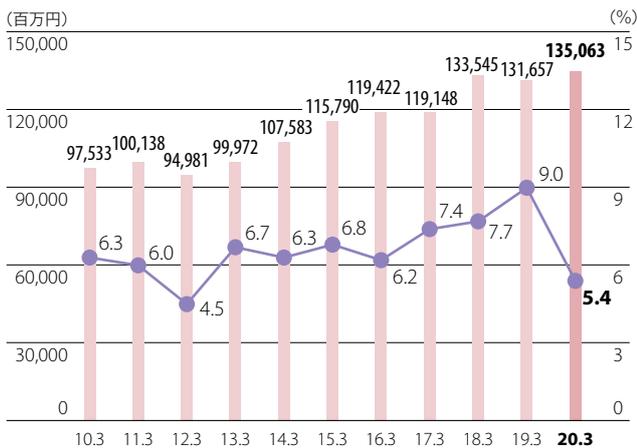
● EPS (1株当たり当期純利益)



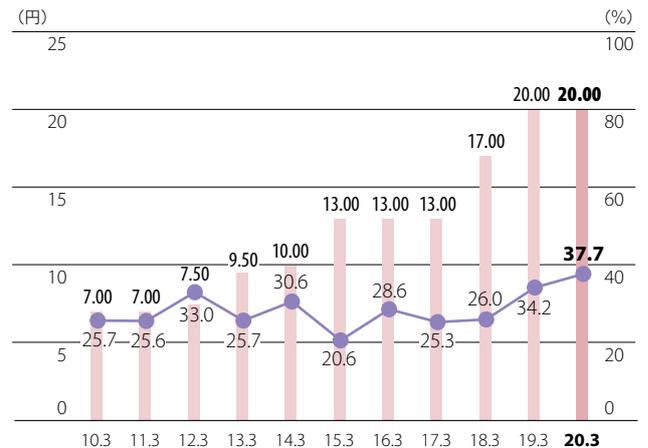
● BPS (1株当たり純資産)



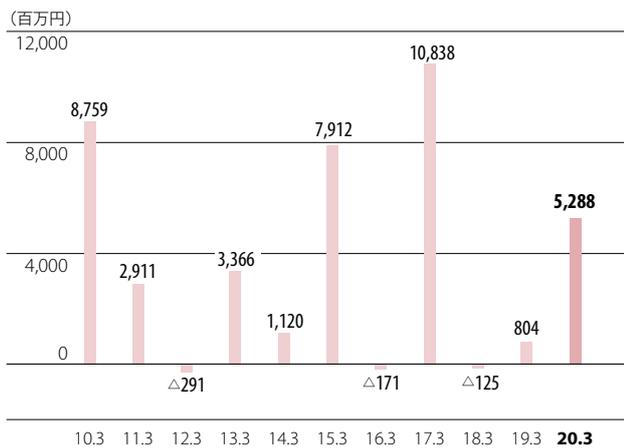
● 総資産／ROA (総資産経常利益率)



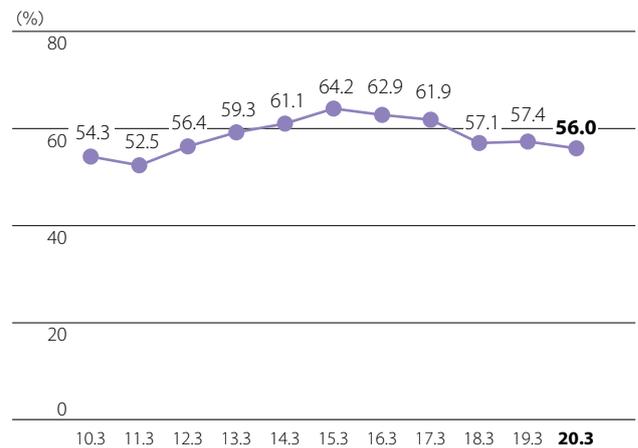
● 1株当たり配当金／連結配当性向



● フリー・キャッシュ・フロー



● 自己資本比率



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	23,429	13,660	18,696
受取手形及び売掛金	20,040	19,484	19,217
電子記録債権	9,264	10,715	8,344
商品及び製品	8,845	10,282	9,941
仕掛品	5,651	5,683	5,990
原材料及び貯蔵品	7,657	8,500	8,044
その他	2,597	3,054	3,261
貸倒引当金	△88	△153	△145
流動資産合計	77,400	71,226	73,351
固定資産			
有形固定資産			
建物及び構築物	9,035	10,199	10,818
機械装置及び運搬具	10,662	11,642	14,220
工具、器具及び備品	5,329	5,307	5,228
土地	9,885	10,500	10,549
建設仮勘定	1,611	3,807	2,056
その他	273	220	1,367
有形固定資産合計	36,799	41,677	44,241
無形固定資産			
のれん	1,481	887	646
その他	7,469	8,533	6,993
無形固定資産合計	8,951	9,420	7,639
投資その他の資産			
投資有価証券	6,247	4,943	5,607
退職給付に係る資産	167	326	293
繰延税金資産	980	1,316	1,246
その他	3,038	2,748	2,685
貸倒引当金	△39	△2	△2
投資その他の資産合計	10,394	9,332	9,831
固定資産合計	56,145	60,430	61,712
資産合計	133,545	131,657	135,063

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
負債の部			
流動負債			
支払手形及び買掛金	7,098	6,625	7,289
1年内償還予定の社債	844	774	474
短期借入金	1,347	1,220	6,674
1年内返済予定の長期借入金	3,888	2,521	1,927
未払法人税等	2,615	1,434	750
未払消費税等	211	535	307
賞与引当金	2,318	2,529	2,235
役員賞与引当金	180	206	158
その他	5,573	6,379	5,218
流動負債合計	24,078	22,227	25,036
固定負債			
社債	22,678	21,904	21,429
長期借入金	5,543	7,037	7,310
繰延税金負債	833	807	859
役員退職慰労引当金	377	362	356
役員株式給付引当金	79	124	176
退職給付に係る負債	444	749	732
資産除去債務	402	408	414
その他	1,716	1,207	1,869
固定負債合計	32,075	32,600	33,147
負債合計	56,154	54,827	58,184
純資産の部			
株主資本			
資本金	21,207	21,207	21,207
資本剰余金	5,674	5,674	5,674
利益剰余金	47,679	51,562	54,404
自己株式	△2,004	△4,032	△6,254
株主資本合計	72,556	74,411	75,032
その他の包括利益累計額			
その他有価証券評価差額金	2,279	1,333	856
繰延ヘッジ損益	—	—	5
為替換算調整勘定	1,291	△254	△316
退職給付に係る調整累計額	89	107	△3
その他の包括利益累計額合計	3,660	1,185	542
非支配株主持分	1,173	1,232	1,304
純資産合計	77,391	76,829	76,879
負債純資産合計	133,545	131,657	135,063

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
売上高	124,566	136,637	127,090
売上原価	90,459	98,188	93,560
売上総利益	34,106	38,449	33,530
販売費及び一般管理費	23,989	26,735	26,580
営業利益	10,117	11,713	6,950
営業外収益			
受取利息	92	67	47
受取配当金	139	138	245
保険収入	136	173	155
為替差益	—	122	—
助成金収入	—	72	321
雑益	424	441	467
営業外収益合計	793	1,017	1,236
営業外費用			
支払利息	226	252	283
売上割引	382	415	373
手形売却損	15	24	22
為替差損	208	—	64
雑損失	344	154	201
営業外費用合計	1,177	847	945
経常利益	9,733	11,883	7,241
特別利益			
有形固定資産売却益	12	11	14
投資有価証券売却益	869	0	355
その他	1	1	5
特別利益合計	883	12	375
特別損失			
有形固定資産売却及び除却損	87	104	74
無形固定資産除却損	—	—	22
減損損失	386	2,675	24
投資有価証券評価損	—	0	99
その他	28	7	7
特別損失合計	502	2,787	228
税金等調整前当期純利益	10,114	9,108	7,387
法人税、住民税及び事業税	3,586	3,312	2,024
法人税等調整額	△72	33	339
法人税等合計	3,513	3,345	2,364
当期純利益	6,601	5,762	5,023
非支配株主に帰属する当期純利益	82	136	86
親会社株主に帰属する当期純利益	6,518	5,625	4,937

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
当期純利益	6,601	5,762	5,023
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	307	△946	△493
繰延ヘッジ損益	—	—	5
為替換算調整勘定	767	△1,558	△15
退職給付に係る調整額	△114	17	△110
その他の包括利益合計	959	△2,487	△614
包括利益	7,560	3,275	4,409
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	7,434	3,150	4,277
非支配株主に係る包括利益	125	124	131

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益	10,114	9,108	7,387
減価償却費	4,297	4,636	6,558
のれん償却額	464	414	219
為替差損益(△は益)	15	61	△23
投資有価証券売却損益(△は益)	△869	△0	△355
貸倒引当金の増減額(△は減少)	57	△31	△3
賞与引当金の増減額(△は減少)	242	224	△290
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△138	45	△142
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	17	△82	△4
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	51	44	52
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	16	26	△47
受取利息及び受取配当金	△232	△206	△292
支払利息	226	252	283
有形固定資産売却損益(△は益)	74	93	59
減損損失	386	2,675	24
売上債権の増減額(△は増加)	△3,110	△767	2,628
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,961	△2,404	357
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△980	498	△99
仕入債務の増減額(△は減少)	781	△340	682
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△5	739	△639
その他	△472	△411	160
小計	8,973	14,577	16,515
利息及び配当金の受取額	232	206	206
利息の支払額	△224	△249	△298
法人税等の支払額	△2,297	△4,464	△3,094
法人税等の還付額	256	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,941	10,069	13,329
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△5,149	△7,597	△6,552
有形固定資産の売却による収入	5	26	29
無形固定資産の取得による支出	△3,128	△2,252	△409
投資有価証券の取得による支出	△20	△22	△1,780
投資有価証券の売却による収入	1,191	88	718
定期預金の純増減額(△は増加)	35	2,624	6
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△2,985	—
その他	△0	853	△51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,066	△9,264	△8,040
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(△は減少)	△189	△2,915	5,452
長期借入れによる収入	3,242	3,319	2,423
長期借入金の返済による支出	△2,686	△4,233	△2,685
社債の発行による収入	9,940	—	—
社債の償還による支出	△904	△844	△774
自己株式の売却による収入	—	0	7
自己株式の取得による支出	△3,532	△2,028	△2,229
配当金の支払額	△1,414	△1,742	△2,078
非支配株主への配当金の支払額	△19	△38	△38
自己株式取得のための金銭の信託の増減額(△は増加)	1,037	△1,023	268
その他	△204	△197	△513
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,267	△9,702	△167
現金及び現金同等物に係る換算差額	78	△245	△76
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,220	△9,143	5,043
現金及び現金同等物の期首残高	16,799	22,019	12,876
現金及び現金同等物の期末残高	22,019	12,876	17,920

グループネットワーク

国内ネットワーク

株式会社キッツ

本 社

〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-0111(大代表)



販売拠点

北海道支店

北海道営業所
〒060-0807
北海道札幌市北区北7条西4-1-2
KDX札幌ビル
TEL: (011)708-6666

東北支店

東北営業所
〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17
朝日生命仙台一番町ビル
TEL: (022)224-5335

北関東支店

北関東営業所
〒331-0812
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1
第2坂本ビル
TEL: (048)651-5260

新潟営業所

〒950-0912
新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54
日生南笹口ビル
TEL: (025)243-3122

東京支社

〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング

東京第一営業所
TEL: (03)6836-1501

東京第二営業所
TEL: (03)6836-1501

千葉営業所
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1706

横浜営業所
〒231-0033
神奈川県横浜市中区長者町5-85
三共横浜ビル
TEL: (045)253-1095

中部支社

〒451-0045
愛知県名古屋市西区名駅3-9-37
合人社名駅3ビル

名古屋第一営業所
TEL: (052)562-1541

名古屋第二営業所
TEL: (052)562-1541

東海営業所
〒420-0034
静岡県静岡市葵区常盤町2-13-1
住友生命静岡常盤町ビル
TEL: 050-3649-3002

北陸営業所
〒939-8211
富山県富山市二口町4-7-14 S・Fビル
TEL: (076)492-4685

甲信営業所
〒391-0012
長野県茅野市金沢5125
キッツ茅野工場内
TEL: (0266)71-1441

大阪支社

〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル

大阪第一営業所
TEL: (06)6541-1178

大阪第二営業所
TEL: (06)6533-1715

中国支店

広島営業所
〒730-0032
広島県広島市中区立町2-27
NBF広島立町ビル
TEL: (082)248-5903

岡山営業所
〒700-0903
岡山県岡山市北区幸町8-29
大樹生命岡山ビル
TEL: (086)226-1607

九州支店

九州営業所
〒812-0007
福岡県福岡市博多区東比恵3-4-2
Z・S福岡ビル
TEL: (092)431-7877

給装営業部

給装第一営業所
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6836-1505

北関東事務所
〒331-0812
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1
第2坂本ビル
TEL: (048)651-5260

横浜事務所
〒231-0033
神奈川県横浜市中区長者町5-85
三共横浜ビル
TEL: (045)253-1095

関西給装事務所
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)7636-1061

営業支援グループ

〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1760

プロジェクト営業部

〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1

プロジェクト第一営業所
TEL: (043)299-1719

調節弁営業所
TEL: (043)299-1773

営業支援グループ
TEL: (043)299-1719

プロジェクト第二営業所
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)7636-1060

建築設備統括部

〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング

計装グループ
TEL: (03)6836-1502

東日本設備グループ
TEL: (03)6836-1503

西日本設備グループ
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)6533-0350

営業推進部

〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1771

海外事業推進部

〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1730

プロダクトマネジメントセンター

水素ステーション事業推進部
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1765

生産拠点・研修所

工場

長坂工場
〒408-8515
山梨県北杜市長坂町長坂上条2040
TEL: (0551)20-4100



伊那工場
〒399-4496
長野県伊那市東春近7130
TEL: (0265)78-1111



茅野工場
〒391-0012
長野県茅野市金沢5125
TEL: (0266)82-0170



研修所

キット研修センター
〒408-0041
山梨県北杜市小淵沢町上笹尾篠原
3332-1239
TEL: (0551)36-3971

キットグループ

東洋バルブ株式会社
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6262-1652
(各種バルブの仕入・販売)

株式会社清水合金製作所
〒522-0027
滋賀県彦根市東沼波町928
TEL: (0749)23-3131
(水道用バルブの製造・販売)



株式会社キットエスシーティー
〒143-0016
東京都大田区大森北1-5-1
大森駅東口ビル
TEL: (03)6404-2171
(半導体製造装置用配管部材の製造・販売)



三吉バルブ株式会社
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1734
(建築設備用及び冷凍機用バルブの仕入・販売)

ワイケイブイ株式会社
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1773
(自動調節弁及びその関連製品の製造・販売・サービス)

株式会社キットエンジニアリングサービス
〒275-0024
千葉県習志野市茜浜1-7-59
TEL: (047)452-0585
(バルブのメンテナンスサービス)

株式会社キットマイクロフィルター
〒392-0012
長野県諏訪市四賀2983
TEL: (0266)52-0002
(ろ過用機器及びその付属品の製造・販売)



株式会社キッツメタルワークス
〒391-8555
長野県茅野市宮川小早川7377
TEL: (0266)79-3030
(伸銅品及びその加工品の製造・販売)



北東技研工業株式会社
〒408-0112
山梨県北杜市須玉町若神子4601
TEL: (0551)42-5151
(金属加工品の製造・販売)



株式会社ホテル紅や
〒392-8577
長野県諏訪市湖岸通り2-7-21
TEL: (0266)57-1111
(ホテル及びレストランの経営)



海外ネットワーク

株式会社キッツ 駐在員事務所

インド

インド駐在員事務所

KITZ Corporation
(India Liaison Office)
805 Meadows, Sahar Plaza, Off
Andheri Kurla Road, Andheri East,
Mumbai 400 059, India
TEL: +91-22-40154202

U.A.E.

ドバイ駐在員事務所

KITZ Corporation
(Dubai Liaison Office)
6EA501 Dubai Airport Free Zone,
P.O. Box 293545, Dubai-U.A.E.
TEL: +971-4-701-7524

キッツグループ

韓国

KITZ Corporation of Korea
10th Floor, Seoul Finance Center,
136, Sejong-daero, Jung-gu, Seoul,
04520, Korea
TEL: +82-2-6959-2450
(各種バルブの販売)

Cephas Pipelines Corp.
20 Hwajeonsandan 6-ro 54 beon-gil,
Gangseo-gu, Busan, Korea
TEL: +82-51-290-3001
(工業用バタフライバルブの製造・販売)



Filcore Co., Ltd.
38, Mayu-ro 42beon-gil, Siheung-si,
Gyeonggi-do, #3Ba-211, Shihwa
Industrial Complex, 15116, Korea
TEL: +82-31-433-3988
(浄水器用、アルカリイオン水器用及びトイレ
ビデオ用フィルターの製造・販売)



シンガポール

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.
No.22 Pioneer Crescent, #03-06
West Park BizCentral, Singapore
628556
TEL: +65-6339-0350
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ Valve & Actuation Singapore Pte. Ltd.
No.22 Pioneer Crescent, #03-06
West Park BizCentral, Singapore
628556
TEL: +65-6861-1833
(各種バルブの仕入・販売・メンテナンス)

タイ

KITZ Valve & Actuation (Thailand) Co., Ltd.
388 Exchange Tower, 17th Floor,
Unit 1701-1, Sukhumvit Road,
Klongtoey Sub-district, Klongtoey
District, Bangkok 10110, Thailand
TEL: +66-2-663-4700
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ (Thailand) Ltd.
426 Moo17 Bangna-Trad Rd.,
T.Bangsaothong, A. Bangsaothong,
Samutprakarn 10570, Thailand
TEL: +66-2-315-3129~32
(青銅・黄銅製バルブ及びバタフライバルブ
の製造・販売)



マレーシア

KITZ Valve & Actuation (Malaysia) Sdn. Bhd.
No. 6, Jalan Teknologi Perintis, ½,
Taman Teknologi Nusajaya, 79200
Iskandar Puteri, Johor Darul Takzim,
Malaysia
TEL: +60-7-553-9731
(各種バルブの仕入・販売・メンテナンス)

ベトナム

KITZ Valve & Actuation Vietnam Co., Ltd.
P1-2.37, The Prince Residence,
No.19-21, Nguyen Van Troi Street,
Ward12, Phu Nhuan District,
Ho Chi Minh City, Vietnam
TEL: +84-28-3995-6933
(各種バルブの仕入・販売)

台湾

KITZ Corporation of Taiwan
5-26 East Street, N.E.P.Z.,
Kaohsiung, Taiwan, R.O.C.
TEL: +886-7-361-1236
(ステンレス鋼・鋳鋼製バルブ及び継手の
製造・販売)



中国

KITZ Corporation of Kunshan
No.15 Taihu South Road Economic
and Technology Development Zone,
Kunshan, Jiangsu Province, P.R.
China, 215300
TEL: +86-512-5763-8600
(ステンレス鋼製バルブの製造・販売)



KITZ Corporation of Jiangsu Kunshan
No.188, Zhongyang Road, B Zone,
Kunshan Comprehensive Free Trade
Zone, Jiangsu Province, P.R. China,
215300
TEL: +86-512-5771-6078
(鋳鋼製バルブの製造・販売)



KITZ Corporation of Shanghai
Room 1701-1704, International
Corporate City,
No.3000 North ZhongShan Rd.,
PuTuo District, Shanghai, P.R. China,
200063
TEL: +86-21-6439-1249
(各種バルブの製造・仕入・販売)



常熟分公司

KITZ Corporation of Lianyungang
No.16 Yun Yang Road, Lianyungang
Economic and Technical Development
Zone, Jiangsu Province, P.R. China,
222047
TEL: +86-518-8236-6061
(鋳鋼製バルブの製造・販売)



KITZ SCT Corporation of Kunshan
8-3, No.3 Road, Export Processing A
Zone, Kunshan, Jiangsu, P.R. China,
215300
TEL: +86-512-5735-0700
(半導体製造装置用配管部材の製造・販売)



香港

KITZ Hong Kong Company Limited
Unit E, 33 Floor, Monterey Plaza,
15 Chong Yip Street, Kwun Tong,
Kowloon, Hong Kong
TEL: +852-2728-2199
(各種バルブの仕入・販売)

インド

Micro Pneumatics Pvt. Ltd.
Plot No.133-134, Vasai Municipal
Industrial Area, Umela Phata, Papdy,
Vasai Road (West) - 401 207, Dist.
Palghar, Maharashtra, India
TEL: +91-250-2320458
(工業(薬品、食品、化学)用自動ボールバ
ルブ及びバタフライバルブの製造・販売)



アメリカ

KITZ Corporation of America
10750 Corporate Drive, Stafford,
Texas 77477, U.S.A.
TEL: +1-281-491-7333
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ SCT America Corporation
5201 Great America Parkway, Suite
238, Santa Clara, California 95054,
U.S.A.
TEL: +1-408-747-5546
(半導体製造装置用配管部材の仕入・販売)

ブラジル

Metalúrgica Golden Art's Ltda.
Rua Getúlio Vargas 496, Bairro
Renovação, Veranópolis, Rio Grande
do Sul, Brazil, 95330-000
TEL: +55-54-3441-8900
(工業用ボールバルブの製造・販売)



スペイン

KITZ Corporation of Europe, S.A.
Ramón Viñas, 8 08930 Sant Adrià de
Besòs, Barcelona, Spain
TEL: +34-93-462-14-08
(鋳鋼製・ステンレス鋼製ボールバルブの
製造・販売)



ドイツ

KITZ Europe GmbH
Siemensstraße 1, 61130 Nidderau,
Germany
TEL: +49-6187-928-100
(欧州全域のマーケティング・販売)

Perrin GmbH
Siemensstraße 1, 61130 Nidderau,
Germany
TEL: +49-6187-928-0
(メタルシートボールバルブ等の製造・販売)



会社概要 / 株式情報

会社概要 (2020年3月31日現在)

商号	株式会社 キッツ
英文商号	KITZ CORPORATION
本社	〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1 (幕張新都心) TEL: (043) 299-0111 (大代表)
URL	https://www.kitz.co.jp/
設立	1951年1月26日
資本金	21,207,084,670円
決算期	3月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード:6498)
社員数	1,327名(単体)
事業内容	バルブ及びその他の流体制御用機器並びにその付属品の製造・販売
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

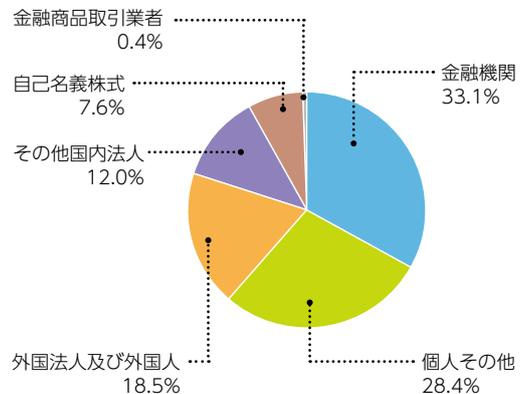
株式情報 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式の総数	92,731,557 株 (注)左記の発行済株式の総数には、当社が2020年3月31日に保有する自己株式7,664,954株を含めておりません。
株主数	10,211名
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
公告掲載方法	電子公告 公告掲載URL(https://www.kitz.co.jp/) ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株

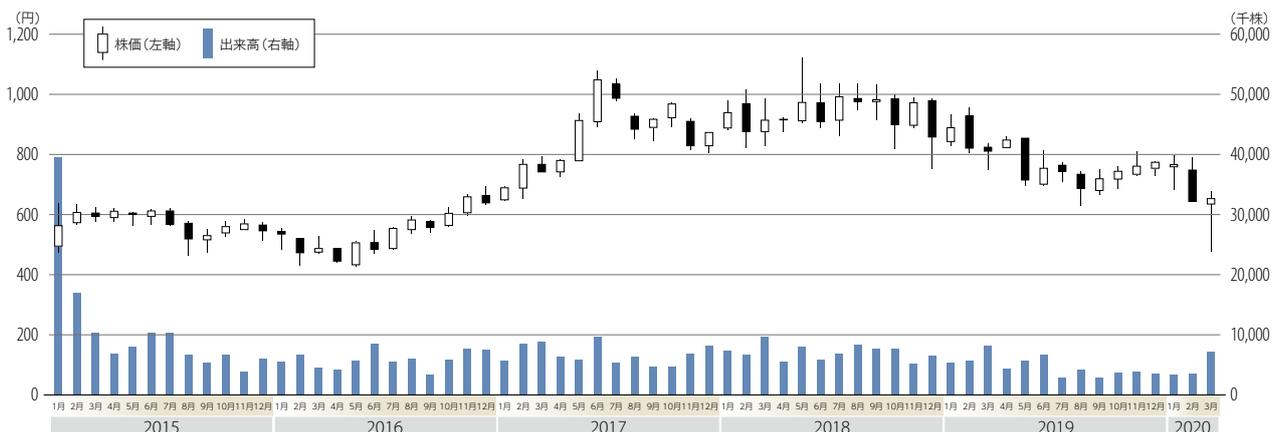
大株主(上位10位)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスト・サービス信託銀行株式会社	8,881	9.58
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	5,374	5.80
北沢会持株会	4,603	4.96
日本生命保険相互会社	4,303	4.64
住友生命保険相互会社	3,420	3.69
公益財団法人北澤育英会	3,411	3.68
キッツ取引先持株会	3,065	3.31
株式会社三井住友銀行	2,553	2.75
キッツ従業員持株会	1,868	2.01
セコム損害保険株式会社	1,702	1.84

所有者別分布



株価情報



東京ドーム、東京駅等に広告看板を設置

知名度向上に向けた取り組みの一環として、東京ドームに企業広告看板を設置しています。その他、JR東京駅、JR海浜幕張駅、JR幕張本郷駅など、首都圏を中心に企業PRを展開しています。



東京ドームレフトポール上段壁面



JR東京駅構内

子どもがバルブをのぞき、「明るい未来」を見ているイメージを表現。バルブからは、「バルブでつなぐ先は、未来。」のキャッチコピーが青空に向かって伸びています。「バルブ」は、明るい未来のために欠かせないものであり、「キッツは持続可能な社会の実現に向け、必要不可欠な存在でありたい」という願いを込めています。

キッツウェブサイトのご案内



<https://www.kitz.co.jp/>



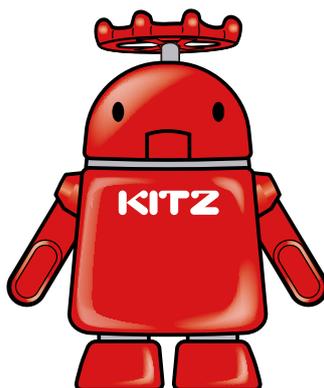
<https://www.kitz.co.jp/sp/>

メインメニューを大きなボタンで表示することによりスマートフォンで閲覧しやすくなり、より便利にご利用いただけます。



企業PRキャラクターのご紹介

企業イメージ向上のために作られた、「菊ハンドル」(P29 Focusをご覧ください)をモチーフとしたキャラクター「きくまる」。これまで、展示会のブースや販売促進ツール等で使用してきましたが、今後、企業PRキャラクターとして、各種プロモーションの場で積極的に活用してまいります。



きくまるプロフィール
 生年月日:2007年10月3日
 性別:なし
 性格:誠実で正直者。行動的でチャレンジ精神にあふれている。時々、おちょこちよいな一面も。

キッツの優秀な営業マンとして、日本各地・世界各国を忙しく飛び回る毎日です。

KITZ